

資料 1

西東京市
教育計画策定のためのヒアリング調査
報告書（案）

平成 30 年 3 月

西東京市教育委員会

目 次

I	調査目的	1
II	調査対象及び調査実施時期	1
III	調査結果	3
	1 社会教育に関する施設・団体	3
	2 教育に関する施設	5
	3 子育て・子育て支援に関する施設・団体	6
	4 特別な支援を必要とする子どもたちに関する団体・事業所	9
IV	アンケート方式の調査結果	13
	1 小学校・中学校の教員	13
	2 アンケート調査票	48

I 調査目的

西東京市教育委員会では、平成 26 年 3 月に「西東京市教育計画（計画期間：平成 26 年度～30 年度）」を策定し、現在様々な施策に取り組んでいます。現計画の計画期間が平成 30 年度で終了することに伴い、次期「西東京市教育計画（平成 31（2019）年度～35（2023）年度）」を新たに策定します。アンケート調査の結果を踏まえ、西東京市における教育の現状と課題を把握するために、市内の教育関連施設・団体に対してヒアリング調査を実施しました。

II 調査対象及び調査実施時期

平成 30 年 1 月から 2 月にかけて実施しました。

施設・団体名	対象	方法
1 社会教育に関する施設・団体		
(1) ひばりが丘公民館、保谷駅前公民館、田無公民館	利用者	ヒアリング当日に活動していた 11 団体に対して対面による聞き取りを実施。
(2) 図書館	利用者	※平成 30 年 2 月に実施予定
(3) 学校施設開放運営協議会	会長	協議会の会長 6 人に対して対面による聞き取りを実施。
2 教育に関する施設		
(1) 幼稚園	教員	私立幼稚園の教員 4 人に対し対面による聞き取りを実施。
(2) 小・中学校	教員	小学校教員 483 人、中学校教員 236 人に対してアンケート調査票を配布し実施。
3 子育て・子育て支援に関する施設・団体		
(1) P T A・保護者の会	会長	小学校及び中学校の会長 4 人に対して対面による聞き取りを実施。
(2) 青少年育成会	会長等	会長等 4 人に対して対面による聞き取りを実施。
(3) 放課後カフェ	実施者	※平成 30 年 2 月に実施予定
(4) ひばりが丘北児童センター 保谷柳沢児童館	職員	館長に対して対面による聞き取りを実施。
	利用者	当日来館していた子どもに対して対面による聞き取りを実施。
(5) ひばりが丘北学童クラブ ひばりが丘北第二学童クラブ 保谷柳沢学童クラブ	職員	指導員に対して対面による聞き取りを実施。
	利用者	当日利用していた子どもに対して対面による聞き取りを実施。

施設・団体名	対象	方法
(6) 保育園	保育士	市立保育園の保育士5人に対して対面による聞き取りを実施。
(7) おはなし会を実施している団体	スタッフ	※平成30年2月に実施予定
4 特別な支援を必要とする子どもたちに関する団体・事業所		
(1) NPO 法人西東京市多文化共生センター (NIMIC) 子ども日本語教室	スタッフ	ボランティアスタッフ5人に対して対面による聞き取りを実施。
(2) さくらの園 (就労継続支援事業所・就労移行支援事業所)	職員	職員3人に対して対面による聞き取りを実施。
(3) サークル縁、ぶーけ (障害がある子どもの保護者団体)	会長等	会長等 (サークル縁5人、ぶーけ3人) に対してヒアリングを実施。

Ⅲ 調査結果

1 社会教育に関する施設・団体

(1) 田無公民館、ひばりが丘公民館、保谷駅前公民館

【調査対象】

社交ダンス、踊り、コーラス、カラオケ、マージャン、手芸、郷土史研究、子育て、書道、折り紙等 計 11 団体

【主な意見】

- ・毎月 1 日から決まった期日で申し込みを行っているが、希望通りはいかず苦勞することもある。主な活動場所としている公民館はあるが、その他福祉会館等も活用している。
- ・公民館主催の講座に参加したことがきっかけで、現在の活動を行うことになった。このような活動をしていることを他の市民にもっと知ってもらいたい。
- ・多くの団体が 10 年以上の長年の活動を実施しているが、参加者の高齢化等によって参加者が縮小している。
- ・印刷機のインク代は市で負担してくれているなど利用者に配慮してくれていると感じる。また、公民館職員も利用者に対し親身になって対応してくれている。公民館の有料化はなんとか避けてもらいたい。
- ・年に一回の文化祭などの発表の場や、テーマ別の資格取得のための成果の作成などに向けて活動をしている。ロビーでの展示など、公民館側も積極的に発表の場を考えてくれている。
- ・施設が老朽化している課題もあるが、施設整備を求めているわけではなく、ボランティアとして子どもたちが参加してくれるだけで解決することもある。これまでも中学生がボランティアとして参加してくれたことがあったが、もっとクローズアップした方がいいのではないかと思う。

(2) 図書館 ※平成 30 年 2 月に実施予定

(3) 学校施設開放運営協議会

【主な意見】

- ・小学校施設開故事業の円滑かつ効果的な運営により、安全な遊び場の確保及び地域開放施設として、また地域住民の生涯学習活動の場として開放し、文化・体育の復興と市民生活の向上を図ることを目的として実施している。
- ・子どもの居場所に関する事業としては、基本的には地域生涯学習の関係の事業と、放課後子供教室の 2 つである。地域生涯学習の関係の事業は、それぞれの学校単位で、さまざまなことをしている。特にやらなければいけないという、統一したものはない。放課後子供教室の事業は、自由遊びと学習活動機会の提供の 2 つがある。

- 今はできることだけをしているが、国の方針なので行政主体で行っている自治体が多い。本来であれば、放課後子供教室も毎日行ってほしい。
- 平成30年度については、PTAの協力もありそうなので試行しようかという段階だが、保護者が本当に望んでいることをすくい出さなければ、始めても不具合になるかもしれない。学童クラブに入れない子どもがいるのであれば、そこも救わなければいけないのに、学童クラブに入っている子どもを放課後教室に入れようとしているのは矛盾していると思う。
- 地域生涯学習もやりたいのだが、放課後子供教室の利用者が多く、手が回らない状態である。育成会等、他の団体の手伝いもしているし、協力していただいているので、大変やりやすい。中心になって進めていただける方が複数いるとよいが、若い保護者は仕事が忙しいので難しいと感じる。

2 教育に関する施設

(1) 幼稚園

【主な意見】

- ・保護者は子ども目線で一緒になって子どもにとって必要な事を考えてくれている。自分の子どもの喜びだけでなく、人の子の喜びも一緒になって喜んでくれる保護者が多いように感じる。
- ・幼稚園入園前に児童館や図書館、乳幼児対象のサークル活動などに参加し、人とのつながりや情報の取得に前向きな保護者が多くいる。必然的に子どもたちも遊びの空間にスムーズに入ってくる姿が多くみられる。
- ・昔と比べて広い意味での特別な支援な子どもが増えているように感じる。
- ・月に一度、卒園生の小学生が延長保育の時間を使って来園している。その時に、せっかく来ているのに宿題をしている子どもがいる。子どもたちの姿には感心するが、なかなか終わらない課題の量などどうにかできないものかと感じる。
- ・幼稚園と小学校それぞれで子どもたちがどのような活動をしているのかをお互いに行きあうことができるかと連携につながるのではないかと感じる。
- ・小学校に行かせてもらえる機会も増え、子ども達同士の交流はあるが小学校の先生達と交流できる機会があると良いのではないかと感じる。
- ・幼稚園では自分で考えて、行動できるような力をつけて卒園させているが、小学校に入ると何もできない赤ちゃんのような対応されてしまうことが残念に感じている。

(2) 小・中学校

※「アンケート方式の調査結果」にて掲載（13 ページ）

3 子育て・子育て支援に関する施設・団体

(1) P T A ・保護者の会

【主な意見】

- ・今の子どもたちは外で遊ばない。公園に行っても子どもはあまりいない。
- ・先生によるクラス格差を感じる。同じ学年でも宿題の量が違う。
- ・切れ目のない支援としていうと、発達障害のことも考えるとその子の特性を生かして得意分野を見つけてあげたいと思う。それぞれの得意分野をもっと伸ばせるような、長い期間での教育みたいなものがあるとよい。興味がある子どもには学年を超えて勉強できるような環境があるとよい。
- ・適正規模・適正配置で統廃合自体はやむを得ない点があると思うが、もしまたあるのだとすれば、結論を決めずに話を持ってきてほしい。どう統廃合するのか、当事者や市民も交えて考えるとといったことを望みたい。
- ・小中一貫教育に関しては、学力はそこだけ上がってしまうのではないかと思う。単純に競争になってしまうのではないかという不安もある。それよりは、もっと日常的に小・中の交流があると良い。
- ・すべての先生に交流の大切さというものを感じてもらうのが重要かと思う。

(2) 青少年育成会

【主な意見】

- ・青少年の健全育成のために活動している。各育成会は、18 の小学校通学区域ごとに活動しており、地域の子どもたちでさまざまな行事の実施や、通学路などの安全点検、防犯・非行防止のためのパトロールなどを行っている。
- ・小学校の場を使い、中学生ボランティアを呼び、地域の中で一緒に行事を行うということをポイントにして取り組んでいる。中学生には、ただ来てもらうだけではなく、中学生が地域の中でボランティア活動をする場づくりにもなっている。
- ・各育成会が集まる、育成会連絡会の全体事業として「歩け歩け会」を企画開催している。その他は、各育成会が独自の事業を進めている。育成会同士で情報交換しながら、概ね似たような事業を行っている。
- ・小学生の間に子どもたちと関わることで信頼関係を築き、その子どもたちが中学校に進学した後に手伝ってくれるということもある。学校も育成会の役割を認知してきている。
- ・学校には青少年育成会と学校施設開放運営協議会の2つの地域団体関わっている。重複している部分や、足りない部分をどちらかがカバーしていることもある。
- ・ボランティアに参加する中学生の人数や雰囲気为学校によって違う。
- ・子どもたちが小学生の間に見守られたという経験から、中学生になったときに見守る立場に変化し、循環していると知り、うれしいと感じる。

(3) 放課後カフェ ※平成30年2月に実施予定

(4) -① ひばりが丘北児童センター、保谷柳沢児童館（職員）

【主な意見】

- ・児童館に来る子どもたちは、みんな元気がよい。
- ・放課後の施設だが、忙しい子どもが多く、遊ぶ時間が少なくなっているように感じる。
- ・塾に行っている子ども、習い事をしている子どもが多い。
- ・市内の児童館では、どこでも、最近少しずつ利用が減っているという話を聞く。
- ・1人で来た子ども、他の子どもと遊べない子どもを遊びにつなげる役目は、職員がしている。
- ・もう少し、学校の先生と情報共有がしたいと思うが、先生も忙しく、放課後の遊びまで関わることは難しいのではないかと思う。
- ・学校の先生方が地域の行事にも参加されており、それを通して子どもたちとの関係も築けているので、よい地域だと思う。
- ・保護者と一緒に来るところではなく、親の目から離れて過ごす場所なので、いたずら程度で、すぐに親に伝えることはしないが、目に余るような場合は連絡を取るようになっている。

(5) -① ひばりが丘北学童クラブ・ひばりが丘北第二学童クラブ、保谷柳沢学童クラブ（職員）

【主な意見】

- ・学校の授業時間が増えて、放課後の時間が少なくなる傾向にあることが、子どもにとって一番大変なことだと感じる。
- ・授業時間が増えたためなのか、宿題も増えていて、保護者に対して求められるものも大きく強くなっているし、その期待に応えようとすることで、子どもの負担が過重になっていると感じることも多々ある。
- ・人と関わる時間が少なくなっているせいか、他の人が何を感じているのか、どう思っているのかということに敏感でなく、自分の発した言葉が、相手を傷つけることに気がつかない子どもが増えているように思う。
- ・弱みを見せない子どもが多い。不平不満は言っても、それが自分の弱点につながることを、とても怖がる傾向にある。自分のできる面、強い面、得意なことを見せたいが、得意でないことや苦手なことは、他人に見せたくない、知られたくない、やりたくないという気持ちがあるのだと思う。
- ・子どもたちの発言に、学校での自己実現がなされたときの達成感が感じられる。叱られたことは、あまり話さないのは当然だが、褒められた話やがんばっている話が喜びとして出ている。学校で活躍し、自分らしくいられて、やりたいことをみつけている姿をみると、感謝の気持ちをもつ。
- ・学童クラブは、できるだけ抑え込まなければいけない部分も出せる場所でありたいと考え

ているが、学校で出せない面を学童クラブで出すことは難しいことだと思う。

(4) -②、(5) -② ひばりが丘北児童センター、保谷柳沢児童館、ひばりが丘北学童クラブ、ひばりが丘北第二学童クラブ、保谷柳沢学童クラブ（利用している子ども）

【主な意見】

- ・毎日が楽しいが、宿題もあるから、あまり外で遊べない。
- ・学校はまあまあ楽しいがいやなこともある。
- ・宿題は自分からやっている。
- ・学校の先生はやさしい。怖いときもあるけれど、怒っても怖くないときもある。
- ・勉強がわからないときは、自分で考えたり、隣の友達に聞いたりする。
- ・西東京市が好き。あまりうるさくなくて、何でもあるから。
- ・体を動かすことが好き。

(6) 保育園

【主な意見】

- ・支援が必要な保護者・家庭が増えてきている。
- ・自分の子どもと向き合えない保護者がいると感じる。
- ・子どもたちに生活習慣を身に付けさせていくというのは忍耐のいる仕事。
- ・子どもが泣くような場面に出くわしたくないと思っている保護者もいる。（そういうところは保育園に任せたいという保護者もいる。）
- ・小学校に入学にするにあたり、スムーズに行くように気を付けている。保育要録を学校に提出しなければならないということになっているが、要録がどこまで役に立っているのか、と感じることがある。
- ・公立・私立を含めた保育園同士、また幼稚園との連携はあまりないが、今後、就学前教育プログラムを作成していくと小学校への円滑な移行につながるのではないかと感じる。

(7) おはなし会を実施している団体 ※平成 30 年 2 月に実施予定

4 特別な支援を必要とする子どもたちへ関する団体・事業所

(1) NPO法人 西東京市多文化共生センター (NIMIC) 子ども日本語教室 (谷戸教室)

【主な意見】

- ・子ども日本語教室は、「多文化理解の促進」、「外国人支援」、「活動の活性化・ネットワーク」の3本柱の内、「外国人支援」の枠組みでの活動に取り組んでいる。外国につながる子どもたちの状況が地域課題であるという問題意識のもと、子ども支援ボランティア養成講座を実施し、子ども日本語教室を開設した。子ども日本語教室では、外国にルーツを持つ子どもの日本語指導、学習支援を実施し、児童・生徒が学校や地域でより円滑に生活できることを目指している。
- ・小学部は3教室、中学部は1教室で実施している。
- ・基本的には、子どものレベルに合わせてマンツーマンで授業を行っている。
- ・子どもたちは学校では母国語を使わないので、ここでの休み時間に、違う学校の子ども同士でも母国語で話し、ほっとすることがある様子。
- ・勉強するために来るというよりも、遊ぶつもりで来ているように感じる。
- ・同じような言葉の悩みをかかえた子ども同士、理解し合えるものがあると感じる。
- ・教えていると我が子のように感じられるので、学校行事で活躍している姿を見たいと思い、学校行事を見学に行っている。
- ・決まったカリキュラムはなく、個々の子どものやる気や状況に合わせ、退屈してきたら少し遊び、また学習に戻るという場合もある。
- ・4年生以下の子どもは保護者が連れてくる決まりになっているので、教室にも入ってもらい、困っていることがないか聞いたりして、コミュニケーションを取るようにしている。
- ・いつもスタッフが不足している。
- ・より支援が必要な子どももいるが、保護者の送迎ができずに来ることができない場合もあると思う。
- ・学習面で、国語の教科書の翻訳版があればよいと感じる。そのようなものがないと、高学年の子どもは授業についていけないし、何をやっているのかもわからないと思う。母国語版があれば、それを頭に入れてから授業を受けることができ、ついていけると思う。
- ・活動している部屋に冷房がないので、夏は暑い。戸を開けると蚊が入ってくる。集中力を保つことが難しい。特別教室にはクーラーがない。
- ・谷戸教室では谷戸小学校の家庭科室で活動しているが、机が子どもの身長に合わないので、学校の空き教室に机を設置して使わせてもらえると、ありがたい。学校との交渉を、スタッフではなく、教育委員会等が窓口になってやってもらえるシステムになるように、ぜひお願いしたい。
- ・3か所だけでなく、各地域に設置されれば、保護者の送迎ができずに通えない子どもも、教室に通うことができると思う。スタッフの数が足りないという問題もあるが、そうなるとうまい。
- ・市が外国籍の住民にもある程度の教育をしようとするのであれば、本来は、行政が行うことだと思う。やりきれない部分をNPOがフォローしている形になっているが、市がもう少し

積極的に取り組んでいただけるとありがたい。

- ・学校側の保護者に対する対応がうまくいっていないことがある。担任の先生も忙しくて、十分なフォローができていないので、担当する方を学校に置けるとよいと思う。
- ・担任の先生と連絡を取り合っていきたいと、以前から要望を出していたが、最近ようやくできるようになってきた。

(2) さくらの園

【主な意見】

- ・就労継続支援事業（B型）については、現在 54 人が利用している。もともと知的障害の子どもを持つ親の会がつくった事業所なので、その流れで今も 9 割の利用者が、知的障害者である。簡易作業を中心に保育園の清掃や委託業務を行っている。就労移行支援事業は、現在 8 人が利用している。西東京市から委託されているビデオデッキの解体作業を中心とした軽作業と障害者総合支援センター「フレンドリー」の中で喫茶コーナーの運営をしている。
- ・障害者雇用促進法により、企業による障害者雇用が進んでいる。そのため、特に就労継続支援B型では利用する障害者が多様化・重度化している。
- ・障害者を企業就労につなげるには指示通りの確実な作業性、安定した出勤、コミュニケーション能力が必要である。
- ・就労に向けて自己（家族）評価（好きな業務であればできる）と、支援者・企業の評価（好きな業務でないとできない）の差を縮めることが必要である。
- ・障害者理解のために、教育の中でぜひ自分たちを役立ててほしい。障害者の支援だけでなく、地域への支援という観点で障害者を含めた地域住民の利益を目指している。

(3) サークル縁、ぶーけ

【主な意見】

- ・セルフヘルプグループとしての役割を担っている。当事者同士が共感し合えること、悩みや愚痴を言い合う、情報を持ち寄り交換することで、次のステップの道しるべの役割を担っていると思う。
- ・障害がある子どもは他の子どもにくらべて、遊びの幅が狭い傾向にあるので、関わりについて保護者が悩むことも多い。
- ・障害者の団体も「スポーツを楽しむ集い」やイベントを行っているが、障害者側が主催すると、当事者しか参加せず、地域の方はまったく参加しない。地域のイベントの中に、障害者も混ぜてほしいということで、そのような機会をどのようにつくるのかという課題があると思う。
- ・西東京市でも、子どもの居場所づくりの重要性が言われているが、その中で地域の学校に通っていない障害児も参加できるように考えていただきたいと思う。
- ・特別支援学級に通うことで、逆に将来の選択肢が狭められてしまうことがないような制度にしてほしい。知的障害がない子どもでも、特別支援学級に進むと、学習内容が通常学級と

まったく違う。それを心配する保護者は多い。

- 通常学級介助員の基準を明確にしてほしい。特別支援教育を受けている側にとっては、不公平感を感じることもある。通常学級の中で合理的配慮をどこまで行うのが、今後の課題になってくると思う。
- 通常学級に通う、障害を持った子どもと、固定学級や特別支援学校を選択した子どもが不平等にならないようにしていただきたい。通常学級に通う子どもに介助員を付けた場合、マンツーマンで丁寧な教育を受けることになるのではないかな。
- 今後、「合理的配慮」という言葉を使う保護者が多くなると思う。通常学級の中で、どこまで配慮を求めることができるのか、支援学級では普通に対応していることでも、通常学級では合理的配慮だということになるのではないかな。
- 特別支援教育を受けると選択した者に、納得感が得られるような制度にしていきたい。
- 副籍制度が始まって数年経つが、制度の意義が現場に伝わっていないと感じている。受け入れる地域の学校にとっても意味のあるやり方を考えていただきたい。
- 通常学級の子どもやその保護者に対する障害者理解を促進してほしい。
- 就学前に、固定学級と支援学級を選択することが、保護者にとっては大変な選択になる。最初は固定学級でも途中から通常学級に移ることが可能な自治体もある。大変難しいことだが、そのようなことも何とか検討してほしい。もし、そのようなシステムができれば、障害の軽い子どもの保護者も就学前の選択の際に、固定学級を選ぶことができるし、通常学級に固執する保護者も減ると思う。西東京市は特にその点が厳しいと感じるので、フレキシブルな対応がとれるような制度を検討していただきたい。
- 教育関連の部署と保育課や健康課、障害福祉課との連携を深めてほしい。
- 保護者の不安は情報不足によることが多いので、保育園や学校等を通して、さまざまな情報を保護者に伝え、相談につなげていくとよいのではないかな。
- 身体に不自由があっても、地域の学校で学べる体制があればよいと思う。
- 一人ひとりを大切にする教育において、その一人ひとりを大切にするというやり方が足りていないという状況がある。障害名でそれが決まってしまうような状況である。どのように育てたいのか、今後どのような大人になっていきたいのかというところを相談したり、親としての意見が尊重されるような状況あればよいと思う。
- 医療的ケアの子どもがこれからどんどん増えていくので、それについての西東京市の方針を知りたい。
- 知能指数が低いから普通級は無理だといわれた。実際、今普通級に通っているが、知能指数が飛び抜けて高い子どもが授業を妨害して止めてしまうなど、大変な状況がある。ダウン症の子どもは静かで、周りにそんなに迷惑をかけることはない。知能指数が低いから支援学校、支援学級というような最初からそういった判断でそういった発言をする方々がいることに憤りを感じる。個人を見て判断していただけたらうれしい。
- 先生たちも学校も非常に大切に、状況に寄り添ってくれている。同じ学校にいても全然違って、出会った先生の質で違うという状況はあると感じる。保護者がいなければ通常学級にはいけないといったプレッシャーは、普通に義務教育を受けるということを阻害している。

- 知らないからわからない、だからできないということが大きいと思う。先生方も先生としてのキャリアや年数も違い、今まで持ってきた学校やお子さんの特性によっても違うと思う。それによって対応が違うということでは、学校としてフォローができないのかと思う。
- まず知っていただくことだと思うが、それには時間と労力がかかる。理解を深める場があって然るべきなのかと思う。副籍交流で月 1 回行くが、担任の先生が変わっただけで交流できる度合いや濃さが違う。

IV アンケート方式の調査結果

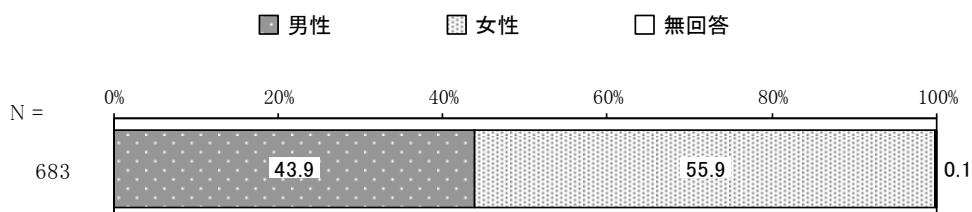
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・表については、横軸に見たときに最も高いものを網掛けしています。

1 小学校・中学校の教員

① 回答者属性

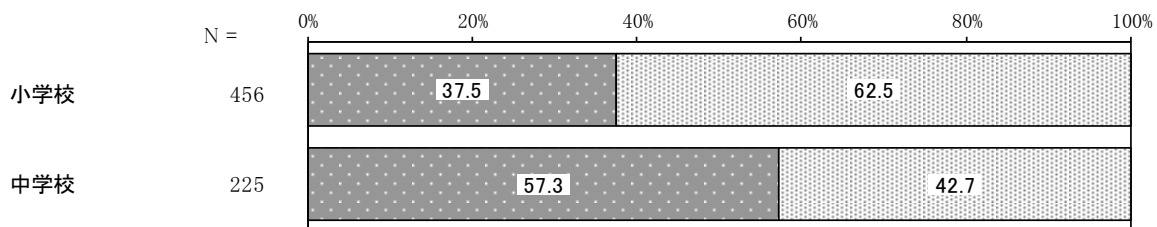
問1 性別はどちらですか。（○は1つ）

「男性」の割合が43.9%、「女性」の割合が55.9%となっています。



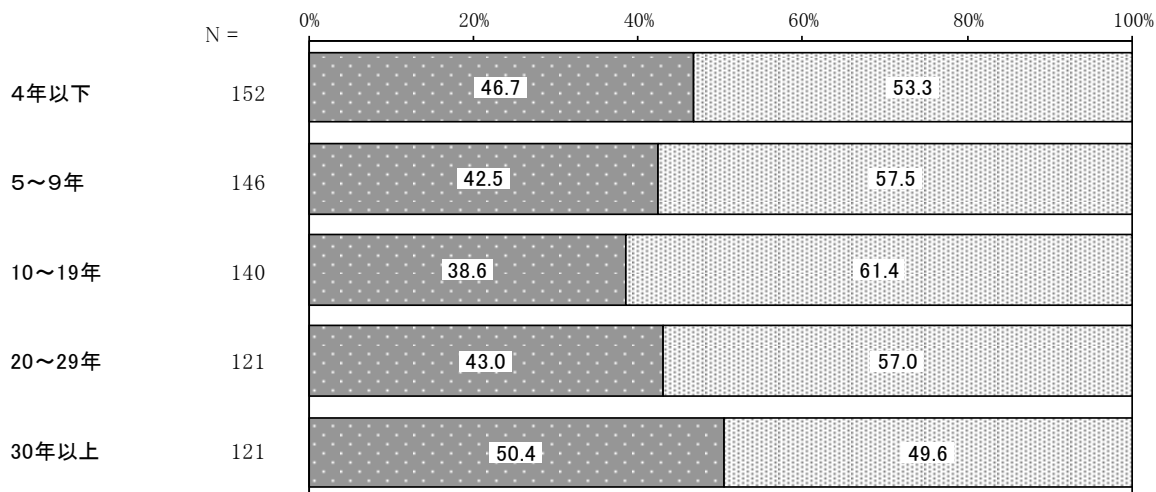
【学校別】

学校別でみると、小学校に比べ、中学校で「男性」の割合が高くなっています。



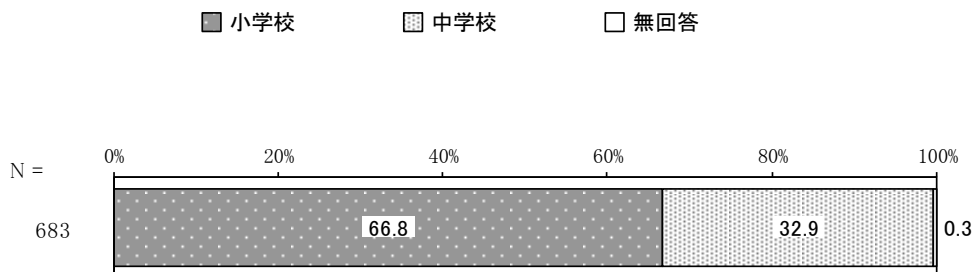
【経験年数別】

経験年数別でみると、他に比べ、30年以上で「男性」の割合が高くなっています。また、29年以下で「女性」の割合が高くなっています。



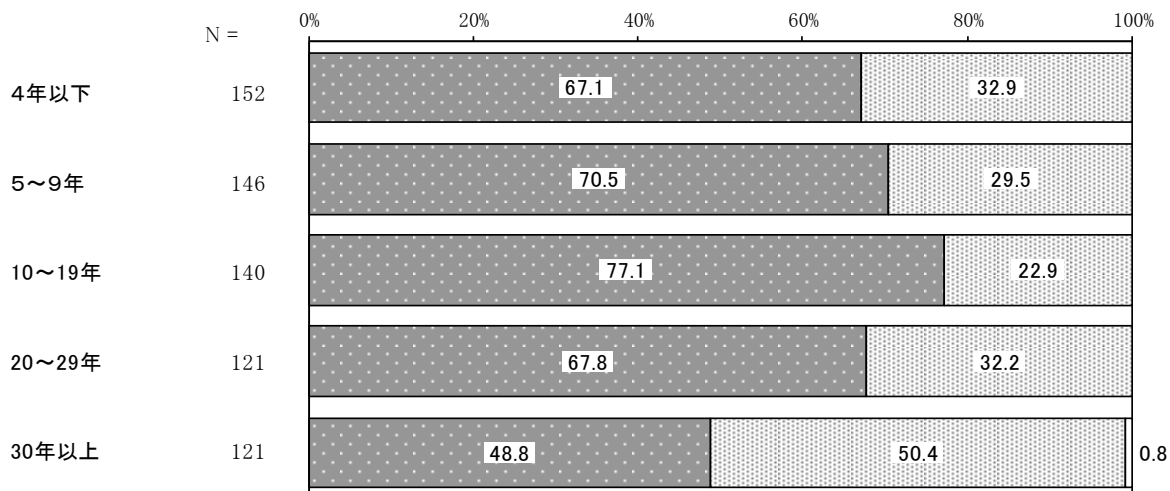
問2 勤務先はどちらですか。(〇は1つ)

「小学校」の割合が66.8%、「中学校」の割合が32.9%となっています。



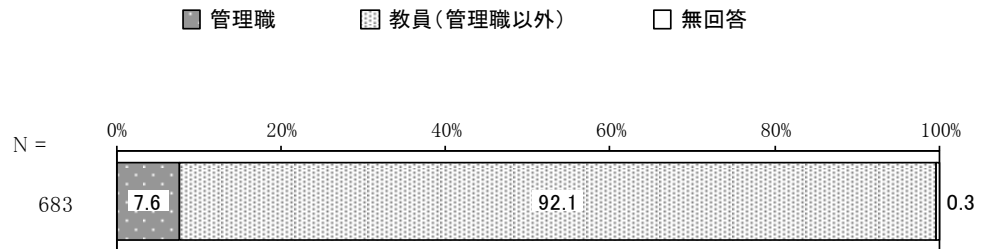
【経験年数別】

経験年数別でみると、他に比べ、30年以上で「中学校」の割合が高くなっています。



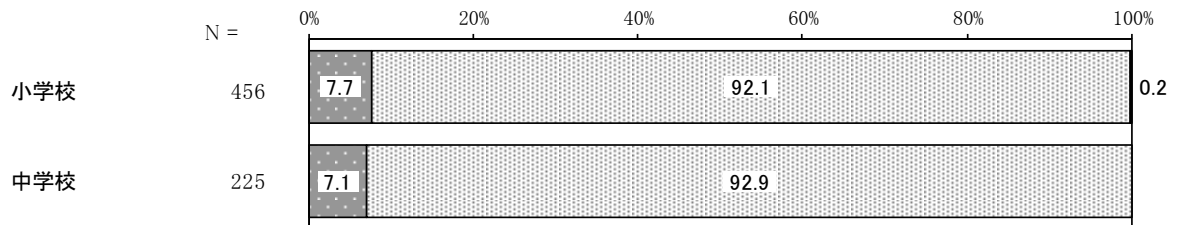
問3 職種を教えてください。(〇は1つ)

「管理職」の割合が7.6%、「教員（管理職以外）」の割合が92.1%となっています。



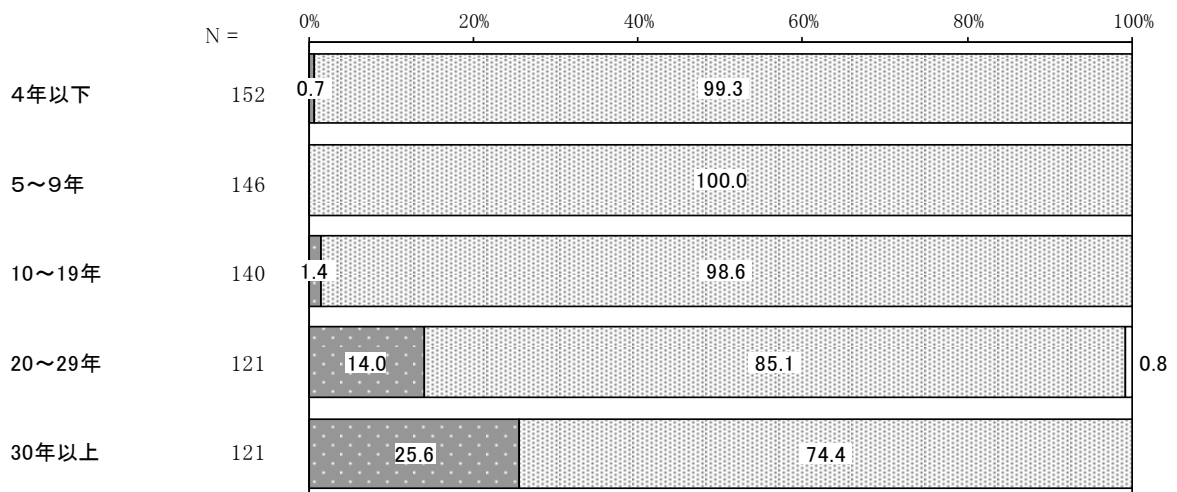
【学校別】

学校別でみると、大きな差異はみられません。



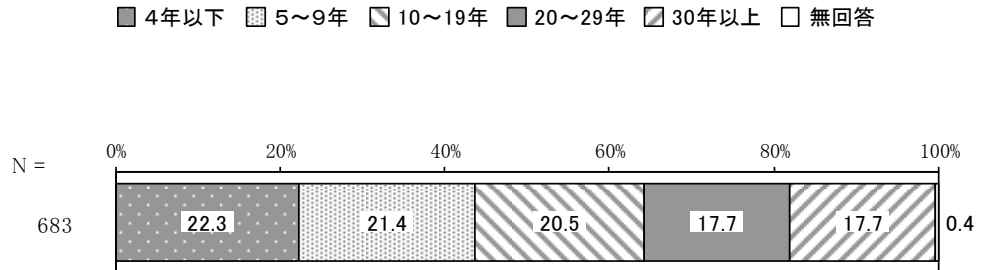
【経験年数別】

経験年数別でみると、年数が長くなるにつれ「管理職」の割合が高くなる傾向がみられます。



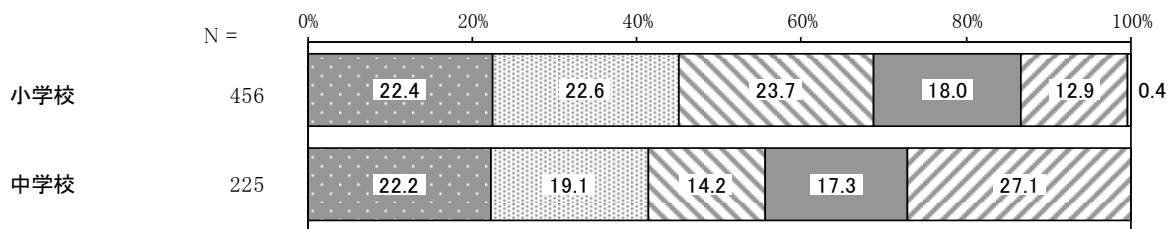
問4 経験年数を教えてください。(〇は1つ)

「4年以下」の割合が22.3%と最も高く、次いで「5～9年」の割合が21.4%、「10～19年」の割合が20.5%となっています。



【学校別】

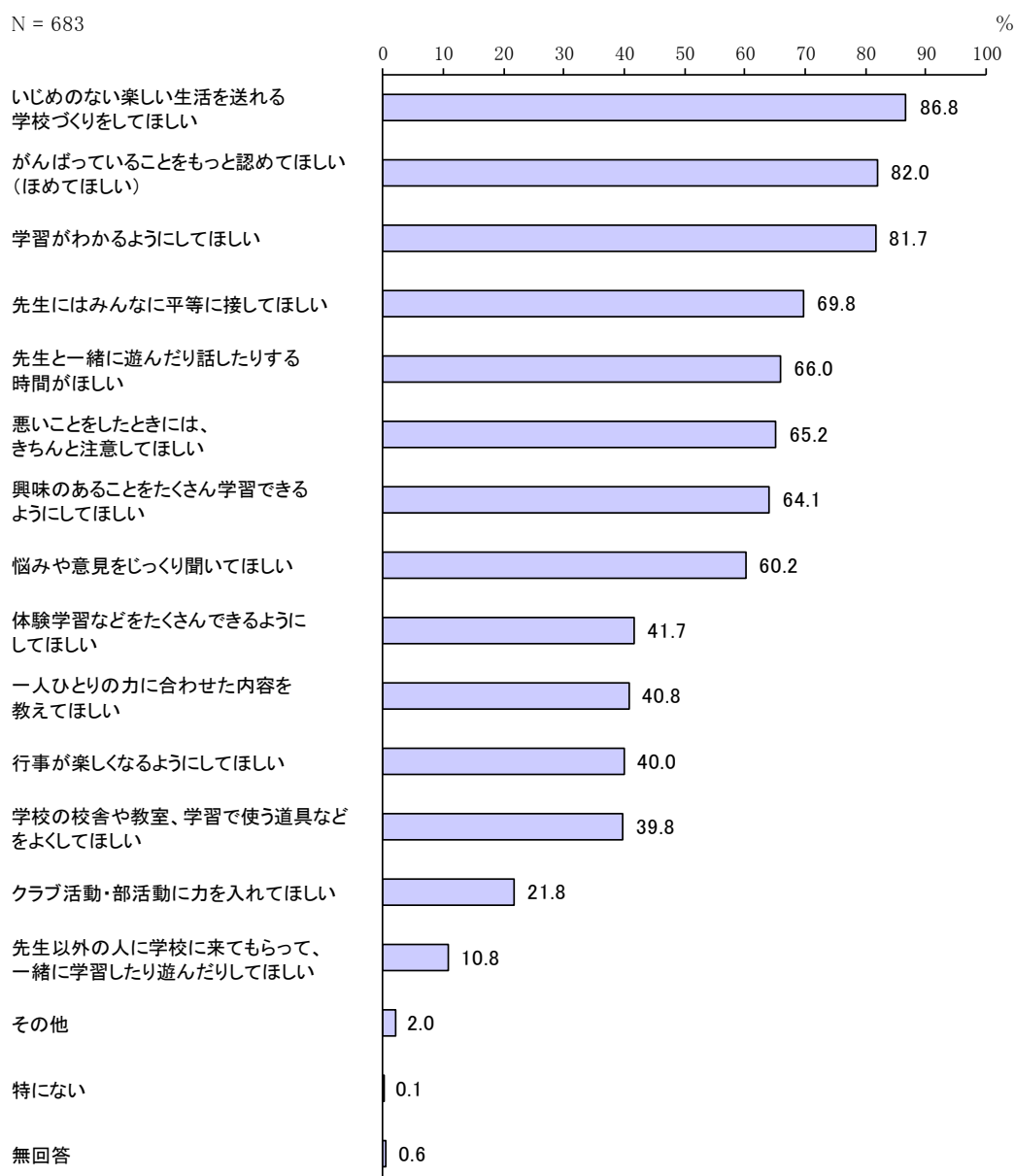
学校別で見ると、中学校に比べ、小学校で「10～19年」の割合が高くなっています。また、小学校に比べ、中学校で「30年以上」の割合が高くなっています。



② 教育や学習に関する取組について

問5 子どもたちが学校や先生に望むことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

「いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい」の割合が86.8%と最も高く、次いで「がんばっていることをもっと認めてほしい(ほめてほしい)」の割合が82.0%、「学習がわかるようにしてほしい」の割合が81.7%となっています。



【学校別】

学校別でみると、中学校に比べ、小学校で「先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい」「体験学習などをたくさんできるようにしてほしい」「興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい」「悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい」「がんばっていることをもっと認めてほしい（ほめてほしい）」の割合が高くなっています。また、小学校に比べ、中学校で「学校の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい」「クラブ活動・部活動に力を入れてほしい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい	体験学習などをたくさんできるようにしてほしい	興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい	いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい	悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい	がんばっていることをもっと認めてほしい（ほめてほしい）	先生にはみんなに平等に接してほしい	一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい
小学校	456	78.3	47.4	66.9	87.3	68.0	86.0	71.1	41.2
中学校	225	41.8	30.7	58.7	85.8	60.0	74.2	67.6	40.4
区分	学習がわかるようにしてほしい	学校の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい	悩みや意見をじっくり聞いてほしい	クラブ活動・部活動に力を入れてほしい	行事が楽しくなるようにしてほしい	先生以外の人に学校に来てもらって、一緒に学習したり遊んだりしてほしい	その他	特になし	無回答
小学校	82.0	36.2	61.6	10.5	39.7	12.1	2.4	0.2	0.9
中学校	80.9	47.6	57.8	44.9	40.9	8.4	1.3	0.0	0.0

【経験年数別】

経験年数別でみると、経験年数が長くなるにつれ「学習がわかるようにしてほしい」「学校の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい」の割合が、経験年数が短くなるにつれ「がんばっていることをもっと認めてほしい(ほめてほしい)」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、4年以下で「行事が楽しくなるようにしてほしい」の割合が、30年以上で「クラブ活動・部活動に力を入れてほしい」の割合が高くなっています。

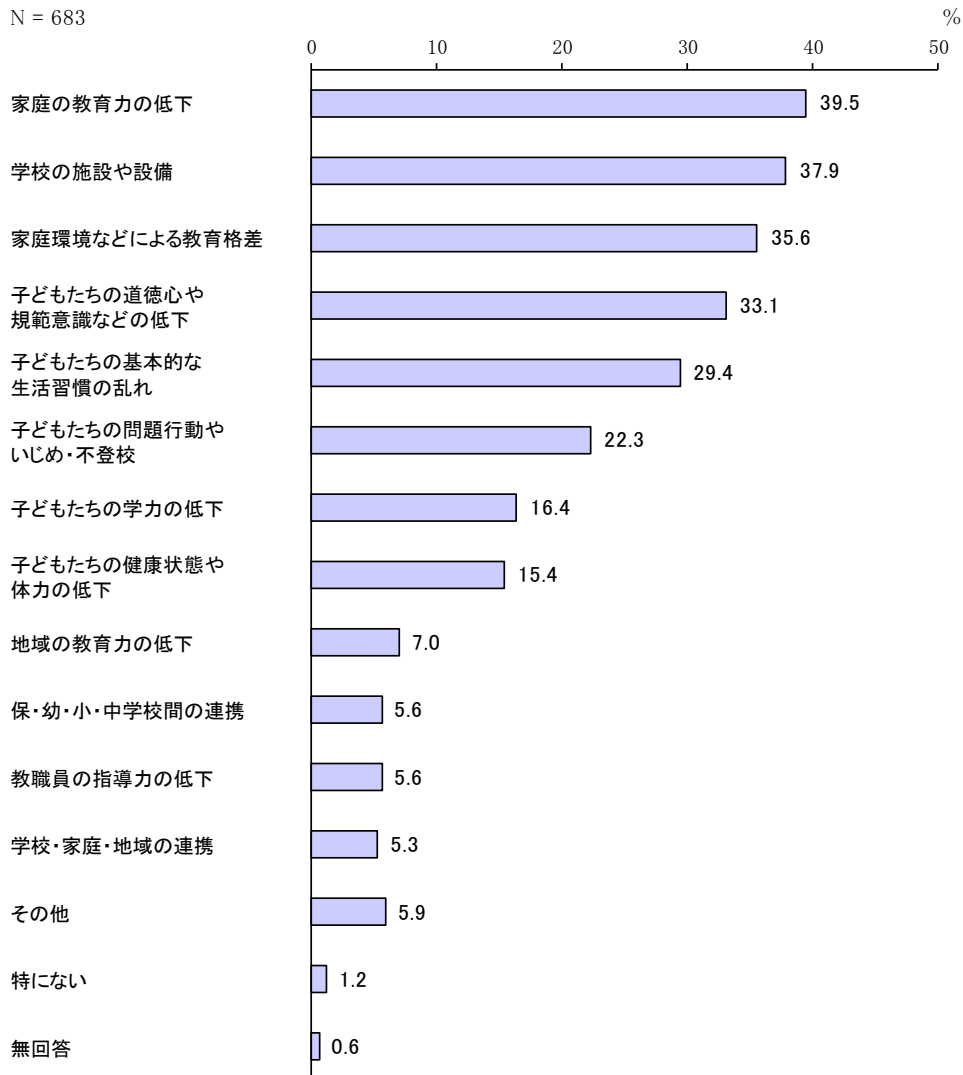
単位：％

区分	有効回答数(件)	先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい	体験学習などをたくさんできるようにしてほしい	興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい	いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい	悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい	がんばっていることをもっと認めてほしい(ほめてほしい)	先生にはみんなに平等に接してほしい	一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい
4年以下	152	68.4	43.4	69.7	83.6	50.7	88.8	73.0	42.8
5～9年	146	67.8	38.4	61.6	86.3	64.4	82.9	71.2	41.1
10～19年	140	72.1	46.4	65.0	85.7	76.4	82.1	72.9	46.4
20～29年	121	61.2	40.5	64.5	92.6	70.2	77.7	66.1	36.4
30年以上	121	58.7	39.7	59.5	86.8	67.8	76.0	65.3	37.2

区分	学習がわかるようにしてほしい	学校の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい	悩みや意見をじっくり聞いてほしい	クラブ活動・部活動に力を入れてほしい	行事が楽しくなるようにしてほしい	先生以外の人に学校に来てもらって、一緒に学習したり遊んだりしてほしい	その他	特にない	無回答
4年以下	77.6	36.2	63.2	23.0	47.4	9.2	0.7	0.0	0.0
5～9年	80.1	39.0	53.4	18.5	36.3	13.7	0.7	0.7	0.7
10～19年	80.7	38.6	62.9	20.0	37.9	11.4	2.1	0.0	2.1
20～29年	84.3	42.1	57.9	14.9	42.1	11.6	1.7	0.0	0.0
30年以上	87.6	45.5	64.5	33.9	35.5	8.3	5.8	0.0	0.0

問6 西東京市の子どもたちや学校教育の現場で課題だと感じていることは何ですか。
(〇は3つまで)

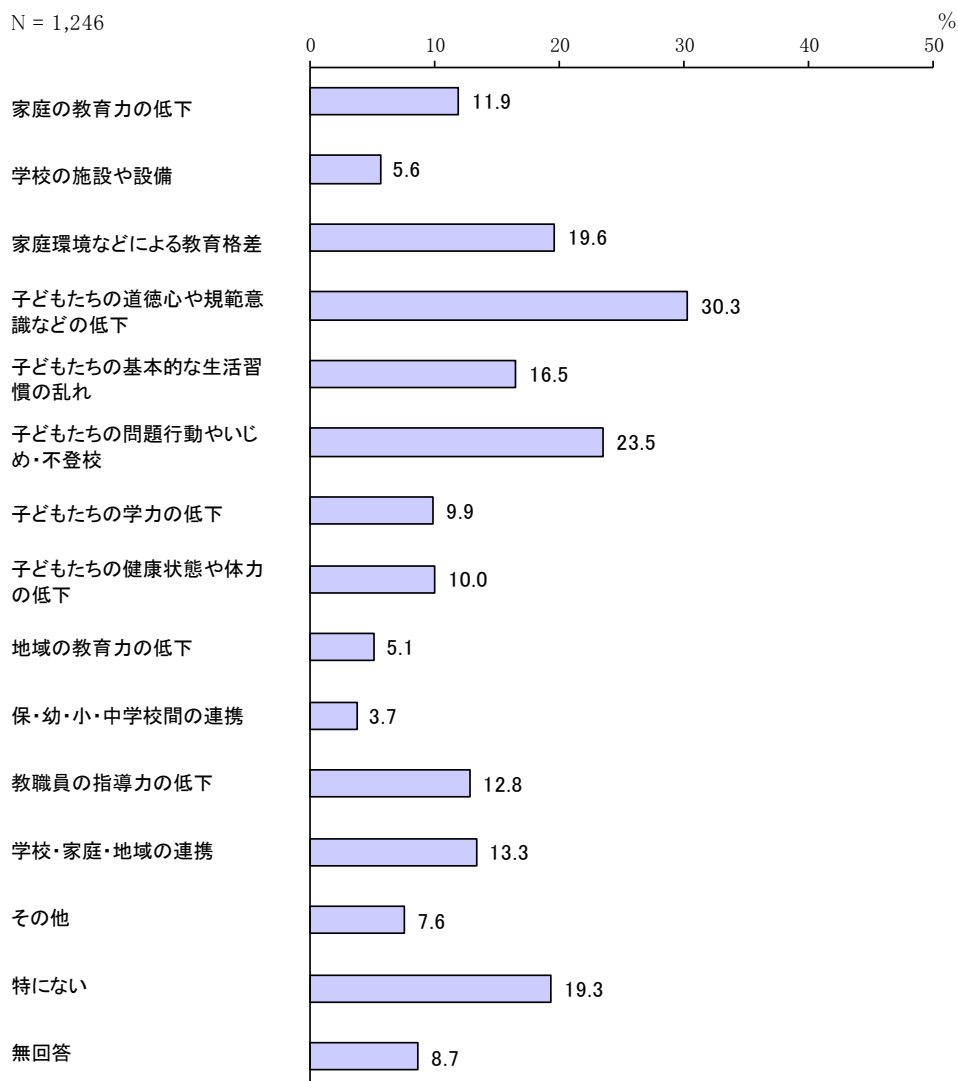
「家庭の教育力の低下」の割合が39.5%と最も高く、次いで「学校の施設や設備」の割合が37.9%、「家庭環境などによる教育格差」の割合が35.6%となっています。



【参 考】

<一般市民調査>

教員調査で最も高い「家庭の教育力の低下」について、一般市民調査では 11.9%と低く、27.6ポイントの差があります。



【学校別】

学校別でみると、中学校に比べ、小学校で「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」の割合が高くなっています。また、小学校に比べ、中学校で「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」「家庭の教育力の低下」「地域の教育力の低下」「学校の施設や設備」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子どもたちの学力の低下	子どもたちの道徳心や規範意識などの低下	子どもたちの健康状態や体力の低下	子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ	子どもたちの問題行動やいじめ・不登校	家庭環境などによる教育格差	家庭の教育力の低下
小学校	456	17.5	33.6	15.6	33.3	19.7	35.5	37.5
中学校	225	14.2	32.4	15.1	21.3	27.1	35.6	43.1

区分	地域の教育力の低下	学校・家庭・地域の連携	保・幼・小・中学校間の連携	学校の施設や設備	教職員の指導力の低下	その他	特になし	無回答
小学校	5.3	4.4	6.1	34.4	5.9	5.7	1.1	0.7
中学校	10.7	7.1	4.4	45.3	4.9	6.2	1.3	0.4

【経験年数別】

経験年数別でみると、経験年数が長くなるにつれ「家庭の教育力の低下」の割合が、経験年数が短くなるにつれ「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、30年以上で「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」「家庭環境などによる教育格差」の割合が高くなっています。

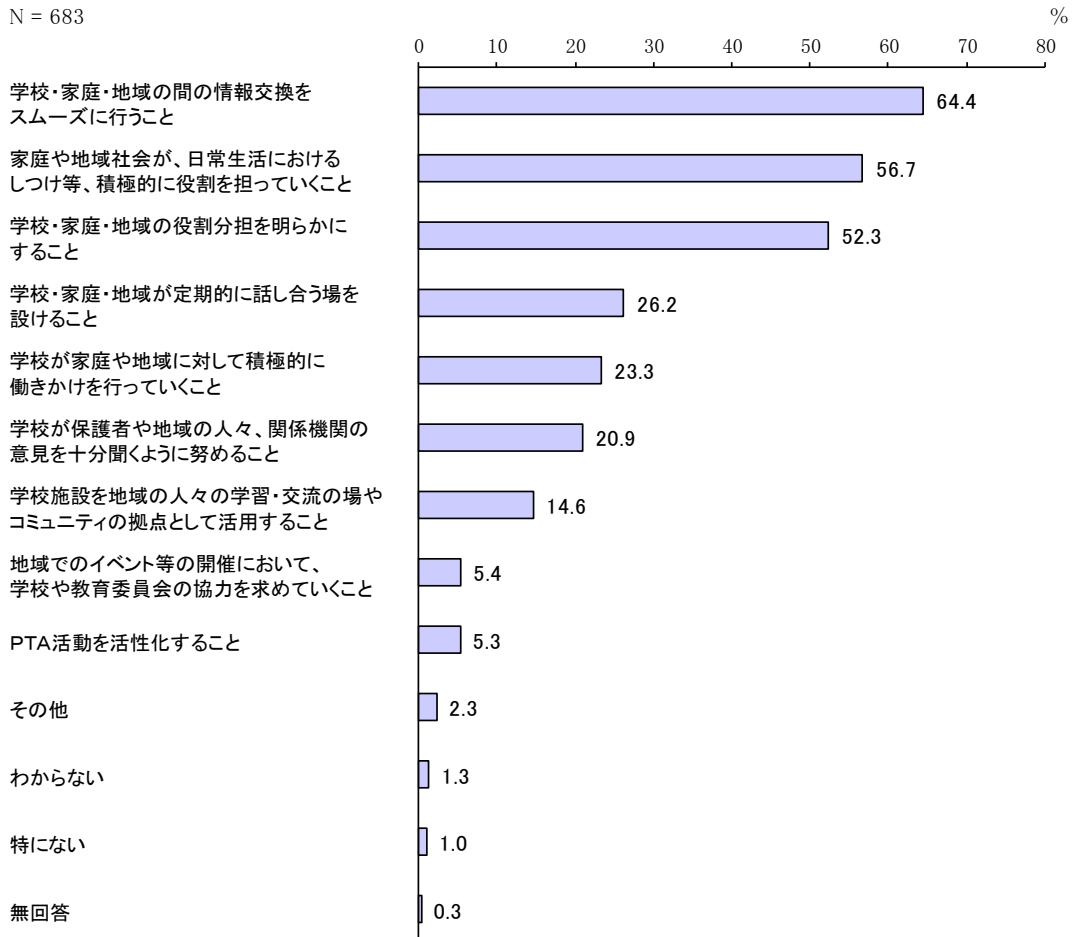
単位：％

区分	有効回答数(件)	子どもたちの学力の低下	子どもたちの道徳心や規範意識などの低下	子どもたちの健康状態や体力の低下	子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ	子どもたちの問題行動やいじめ・不登校	家庭環境などによる教育格差	家庭の教育力の低下
4年以下	152	15.1	28.3	21.7	32.2	16.4	36.8	25.7
5～9年	146	21.2	39.0	13.7	32.2	26.7	27.4	34.2
10～19年	140	17.1	28.6	15.7	30.7	18.6	36.4	42.9
20～29年	121	18.2	39.7	13.2	28.9	19.0	35.5	41.3
30年以上	121	9.9	30.6	11.6	20.7	32.2	43.8	57.0

区分	地域の教育力の低下	学校・家庭・地域の連携	保・幼・小・中学校間の連携	学校の施設や設備	教職員の指導力の低下	その他	特になし	無回答
4年以下	10.5	6.6	7.9	40.8	2.6	2.0	2.6	0.0
5～9年	3.4	6.2	6.8	34.2	5.5	8.9	0.0	0.7
10～19年	4.3	5.7	5.0	42.1	2.1	7.1	0.7	1.4
20～29年	9.1	4.1	4.1	32.2	10.7	5.0	1.7	0.8
30年以上	8.3	3.3	3.3	39.7	7.4	5.8	0.8	0.0

問7 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

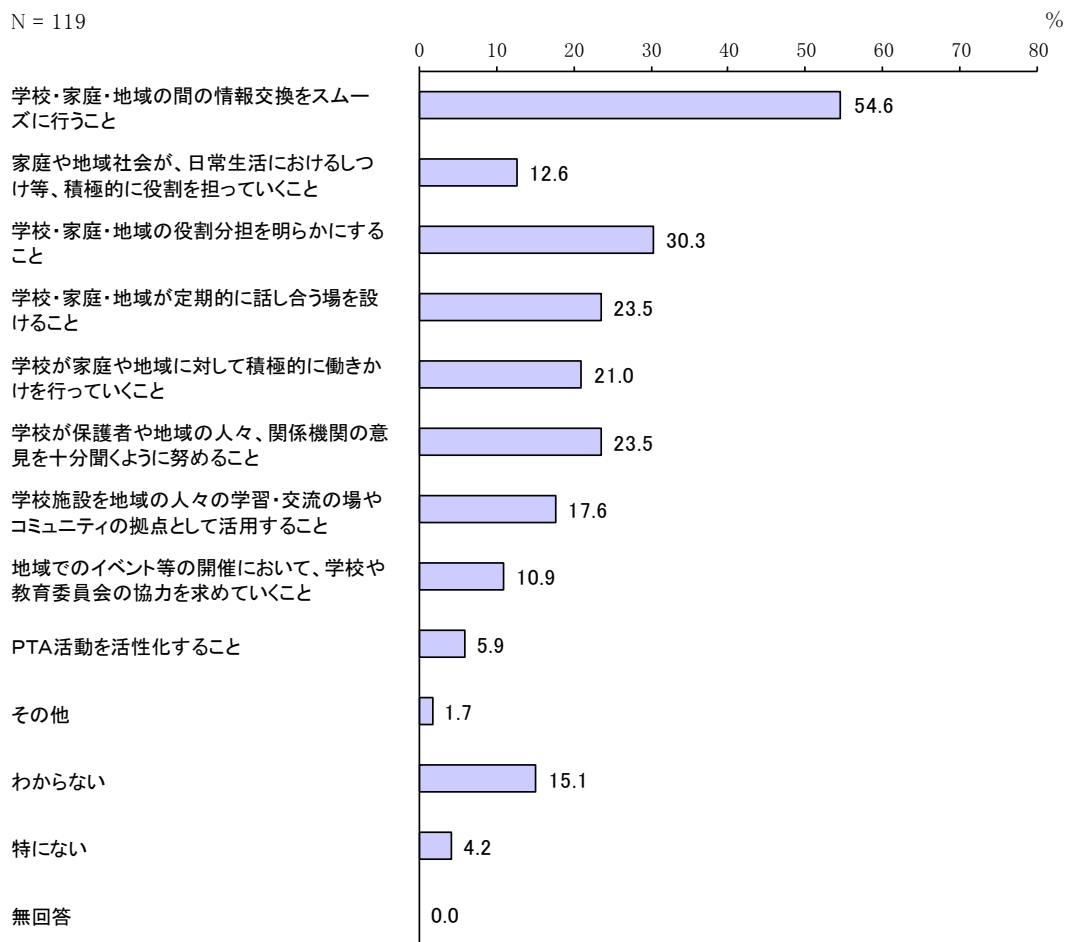
「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」の割合が64.4%と最も高く、次いで「家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけ等、積極的に役割を担っていくこと」の割合が56.7%、「学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること」の割合が52.3%となっています。



【参 考】

<青少年調査>

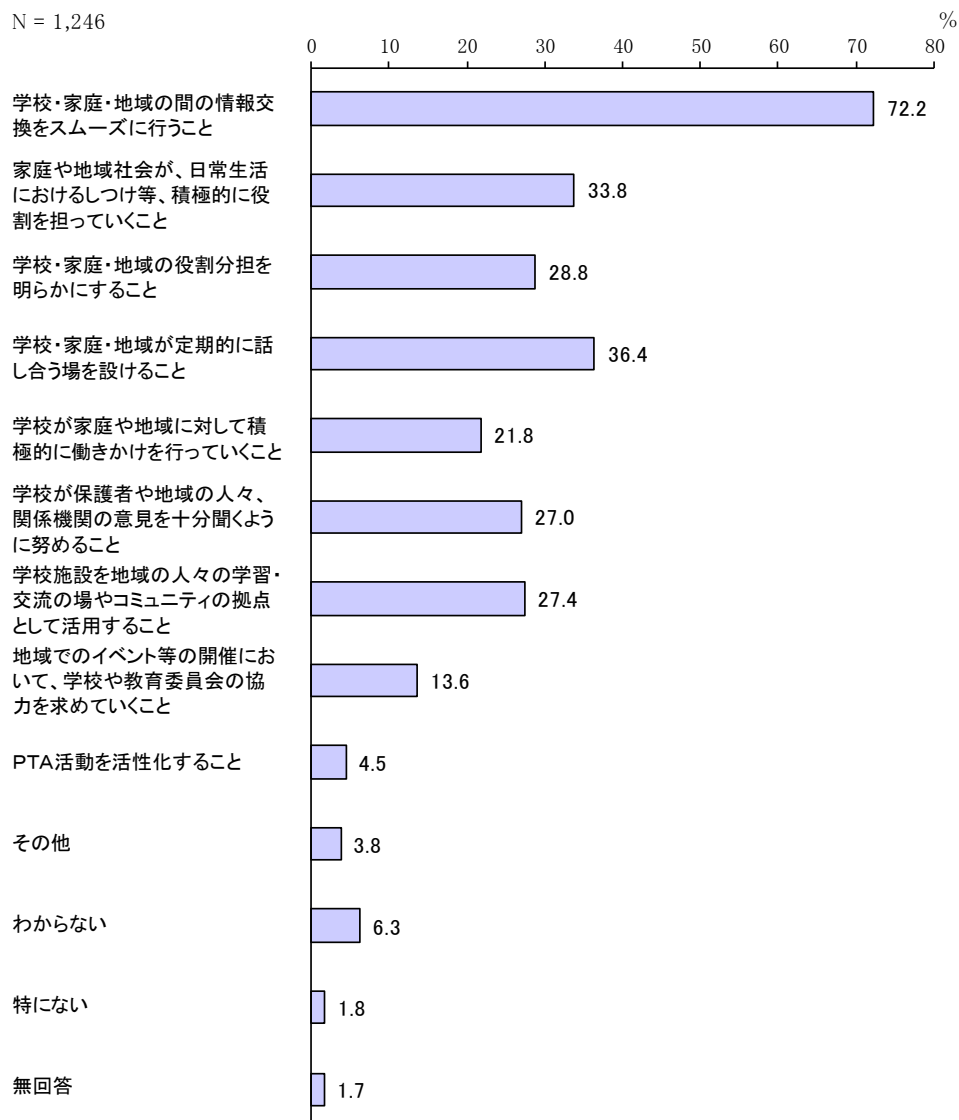
教員調査で最も高い「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」について、青少年調査においても 54.6%と最も高くなっています。



【参 考】

<一般市民調査>

教員調査で最も高い「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」について、一般市民調査においても72.2%と最も高くなっています。



【学校別】

学校別でみると、中学校に比べ、小学校で「学校が家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること	学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと	学校・家庭・地域が定期的にし合う場を設けること	学校が家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと	学校が保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること	学校施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニケーションの拠点として活用すること
小学校	456	52.9	64.3	26.3	25.0	21.1	15.6
中学校	225	50.7	64.9	26.2	20.0	20.9	12.9

区分	家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけ等、積極的に役割を担っていくこと	P T A活動を活性化すること	地域でのイベント等の開催において、学校や教育委員会の協力を求めていくこと	その他	わからない	特になし	無回答
小学校	55.5	5.3	4.8	2.4	2.0	1.1	0.2
中学校	59.1	5.3	6.7	2.2	0.0	0.9	0.4

【経験年数別】

経験年数別でみると、経験年数が長くなるにつれ「家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけ等、積極的に役割を担っていくこと」の割合が高くなっています。また、他に比べ、4年以下、10～19年で「学校が家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと」の割合が高くなっています。

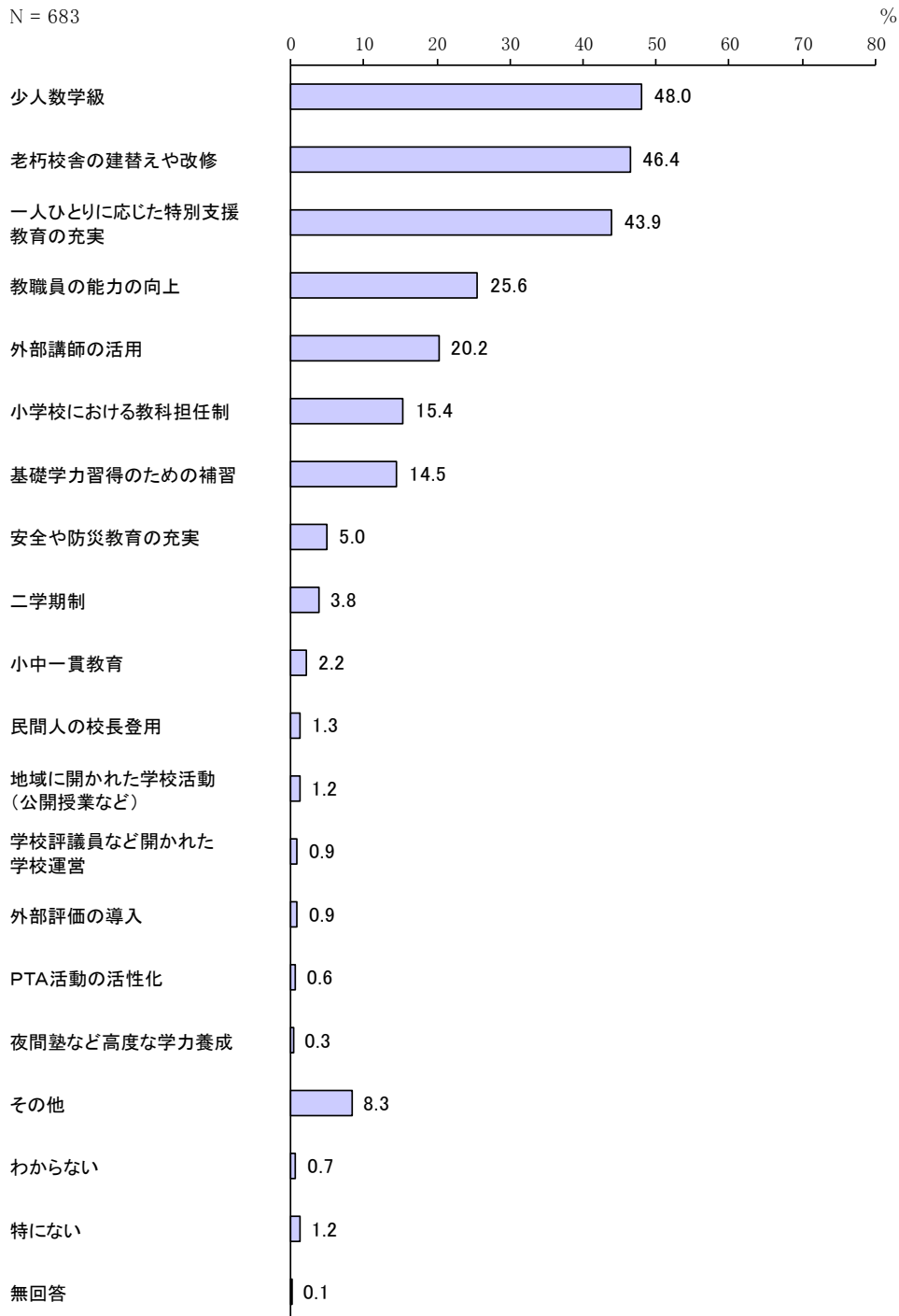
単位：％

区分	有効回答数（件）	学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること	学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと	学校・家庭・地域が定期的話し合う場を設けること	学校が家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと	学校が保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること	学校施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニケーションの拠点として活用すること
4年以下	152	46.7	69.1	25.0	28.3	22.4	18.4
5～9年	146	52.7	63.0	26.0	22.6	20.5	16.4
10～19年	140	51.4	65.0	25.0	27.1	20.0	12.1
20～29年	121	53.7	65.3	30.6	19.0	22.3	14.0
30年以上	121	57.9	59.5	25.6	18.2	19.8	10.7

区分	家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけ等、積極的に役割を担っていくこと	PTA活動を活性化すること	地域でのイベント等の開催において、学校や教育委員会の協力を求めていくこと	その他	わからない	特になし	無回答
4年以下	46.7	6.6	7.9	2.0	0.7	0.7	0.0
5～9年	53.4	6.2	4.8	0.7	1.4	0.0	0.7
10～19年	55.7	4.3	6.4	1.4	2.1	1.4	0.7
20～29年	65.3	5.8	4.1	2.5	1.7	1.7	0.0
30年以上	66.1	3.3	3.3	5.8	0.0	1.7	0.0

問8 今後、西東京市の公立学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるものは、どれですか。(〇は3つまで)

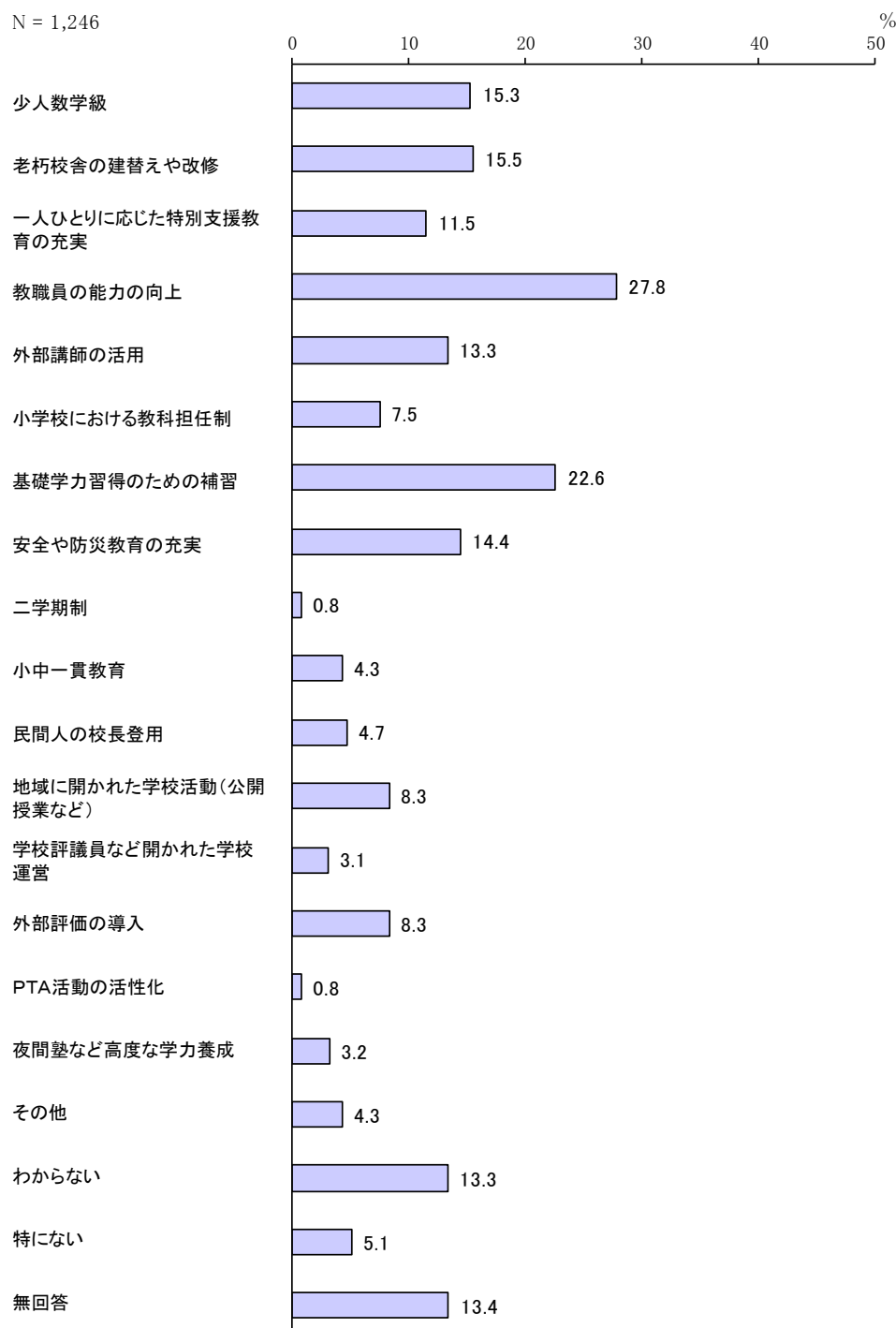
「少人数学級」の割合が48.0%と最も高く、次いで「老朽校舎の建替えや改修」の割合が46.4%、「一人ひとりに応じた特別支援教育の充実」の割合が43.9%となっています。



【参 考】

<一般市民調査>

教員調査で最も高い「少人数学級」について、一般市民調査においては15.3%と低く、32.7ポイントの差があります。



【学校別】

学校別でみると、中学校に比べ、小学校で「少人数学級」「教職員の能力の向上」の割合が高くなっています。また、小学校に比べ、中学校で「基礎学力習得のための補習」「老朽校舎の建替えや改修」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	少人数学級	民間人の校長登用	小学校における教科担任制	教職員の能力の向上	外部講師の活用	基礎学力習得のための補習	夜間塾など高度な学力養成	一人ひとりに応じた特別支援教育の充実	安全や防災教育の充実	二学期制
小学校	456	52.4	0.9	16.7	27.4	20.0	11.4	0.0	43.9	4.4	4.6
中学校	225	39.6	2.2	12.9	22.2	20.9	20.4	0.9	44.0	6.2	2.2

区分	小中一貫教育	PTA活動の活性化	地域に開かれた学校活動(公開授業など)	学校評議員など開かれた学校運営	外部評価の導入	老朽校舎の建替えや改修	その他	わからない	特にない	無回答
小学校	1.8	0.9	0.9	0.7	1.1	43.0	8.3	0.9	1.5	0.0
中学校	3.1	0.0	1.8	1.3	0.4	52.9	8.4	0.4	0.4	0.4

【経験年数別】

経験年数別でみると、他に比べ、20年以上で「老朽校舎の建替えや改修」の割合が高くなっています。また、4年以下、20～29年で「一人ひとりに応じた特別支援教育の充実」の割合が高くなっています。

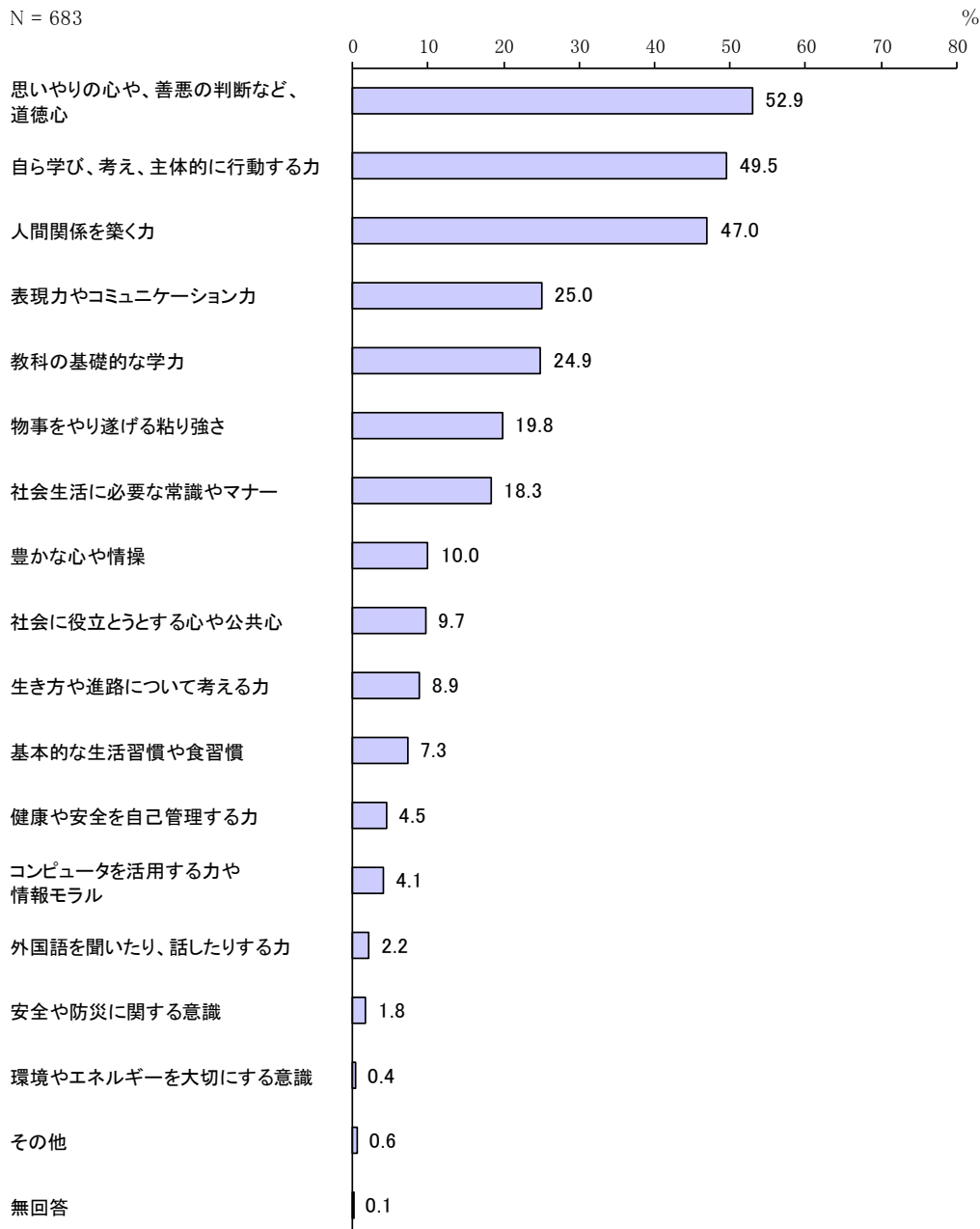
単位：％

区分	有効回答数(件)	少人数学級	民間人の校長登用	小学校における教科担任制	教職員の能力の向上	外部講師の活用	基礎学力習得のための補習	夜間塾など高度な学力養成	一人ひとりに応じた特別支援教育の充実	安全や防災教育の充実	二学期制
4年以下	152	36.8	3.3	17.1	28.9	22.4	12.5	0.7	48.0	3.9	7.2
5～9年	146	47.9	2.1	13.7	28.1	20.5	13.0	0.7	41.8	4.1	4.8
10～19年	140	50.7	0.0	18.6	20.0	26.4	17.9	0.0	39.3	6.4	3.6
20～29年	121	54.5	0.8	11.6	28.9	14.9	13.2	0.0	48.8	2.5	1.7
30年以上	121	52.9	0.0	14.9	20.7	15.7	16.5	0.0	43.0	8.3	0.8

区分	小中一貫教育	P T A 活動の活性化	地域に開かれた学校活動(公開授業など)	学校評議員など開かれた学校運営	外部評価の導入	老朽校舎の建替えや改修	その他	わからない	特にない	無回答
4年以下	1.3	0.7	2.0	1.3	1.3	38.8	5.3	1.3	2.0	0.0
5～9年	2.7	1.4	0.0	0.7	0.7	43.8	8.9	1.4	0.0	0.0
10～19年	0.7	0.0	1.4	0.7	1.4	40.7	7.1	0.7	2.1	0.7
20～29年	1.7	0.8	0.8	0.0	0.0	54.5	7.4	0.0	0.0	0.0
30年以上	5.0	0.0	1.7	1.7	0.0	57.0	14.0	0.0	1.7	0.0

問9 西東京市の学校教育で子どもに教えることとして、重要だと思うことは何ですか。
(○は3つまで)

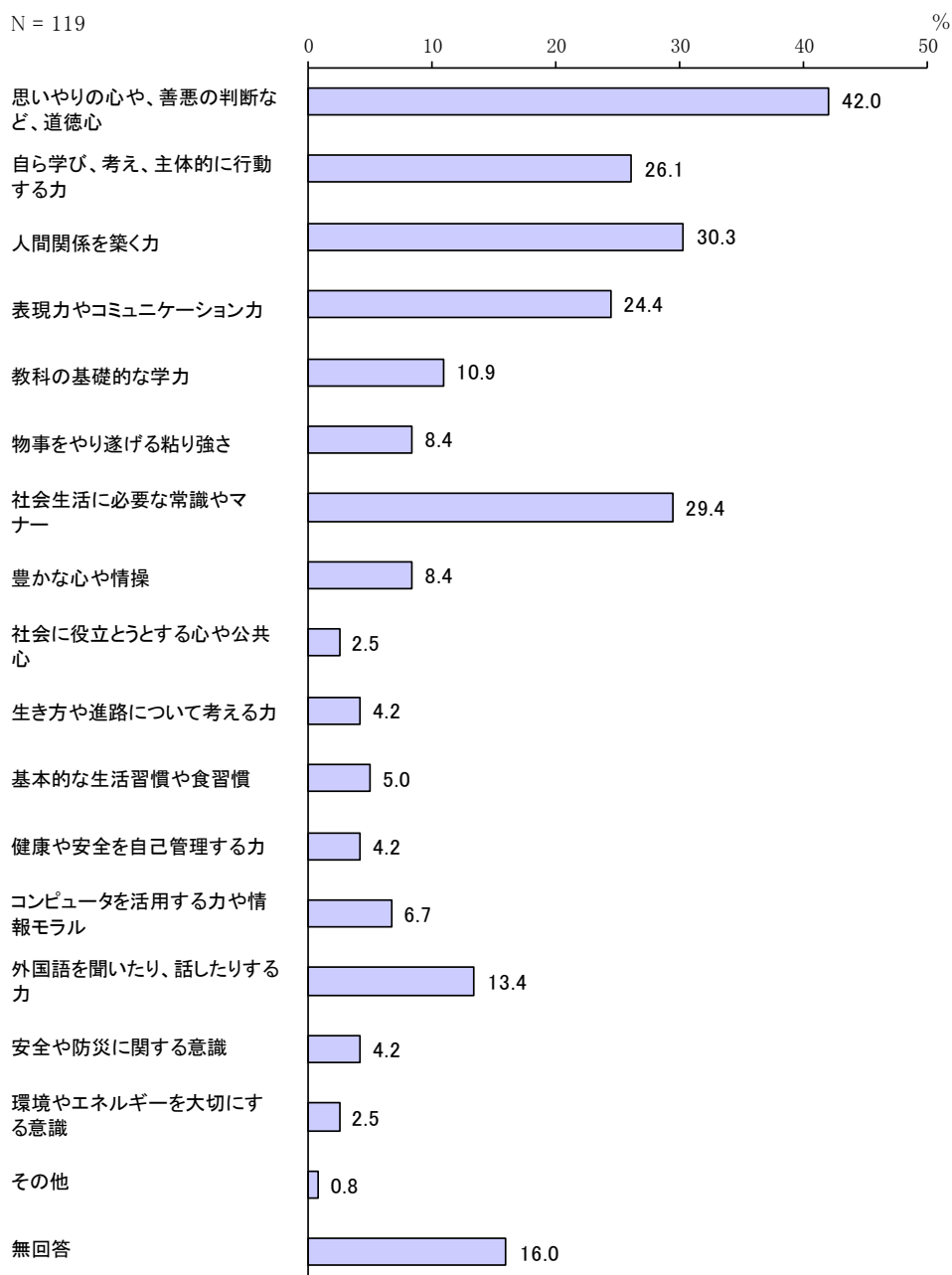
「思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心」の割合が52.9%と最も高く、次いで「自ら学び、考え、主体的に行動する力」の割合が49.5%、「人間関係を築く力」の割合が47.0%となっています。



【参 考】

<青少年調査>

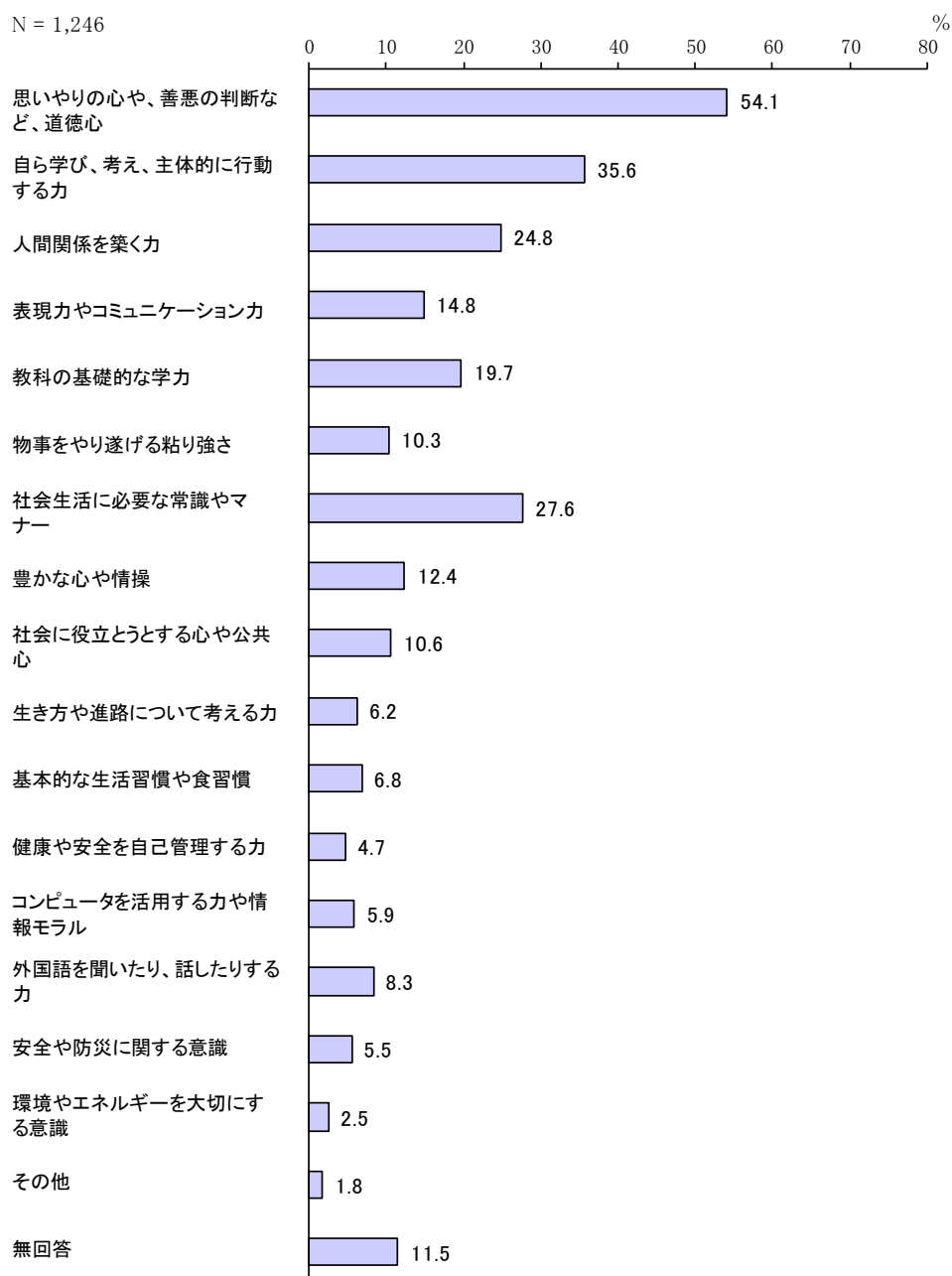
教員調査で最も高い「思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心」について、青少年調査においても42.0%と最も高くなっています。



【参 考】

＜一般市民調査＞

教員調査で最も高い「思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心」について、一般市民調査においても54.1%と最も高くなっています。



【学校別】

学校別でみると、中学校に比べ、小学校で「自ら学び、考え、主体的に行動する力」「教科の基礎的な学力」の割合が高くなっています。また、小学校に比べ、中学校で「物事をやり遂げる粘り強さ」「生き方や進路について考える力」「豊かな心や情操」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心	人間関係を築く力	自ら学び、考え、主体的に行動する力	社会生活に必要な常識やマナー	教科の基礎的な学力	物事をやり遂げる粘り強さ	生き方や進路について考える力	健康や安全を自己管理する力	表現力やコミュニケーション力
小学校	456	53.9	46.3	53.7	17.5	27.0	17.3	7.2	5.3	25.9
中学校	225	50.7	48.4	41.3	19.6	20.4	24.0	12.4	3.1	23.6

区分	基本的な生活習慣や食習慣	外国語を聞いたり、話したりする力	豊かな心や情操	社会に役立つと心や公共心	コンピュータを活用する力や情報モラル	環境やエネルギーを大切にする意識	安全や防災に関する意識	その他	無回答
小学校	5.9	1.5	8.1	9.4	4.4	0.4	2.2	0.7	0.2
中学校	10.2	3.6	13.8	10.2	3.6	0.4	0.9	0.4	0.0

【経験年数別】

経験年数別でみると、経験年数が長くなるにつれ「豊かな心や情操」の割合が高くなっています。また、5～9年、20～29年で「自ら学び、考え、主体的に行動する力」の割合が高くなっています。

単位：％

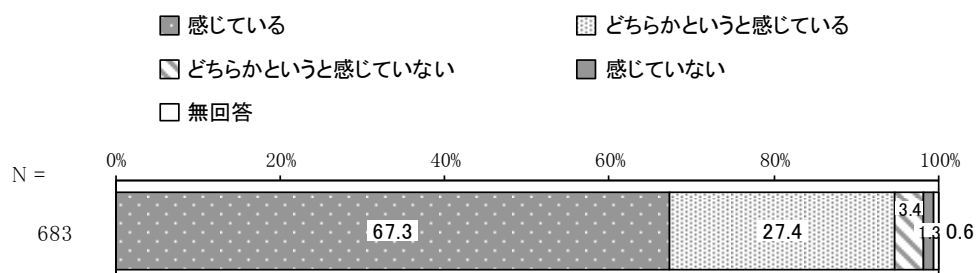
区分	有効回答数(件)	思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心	人間関係を築く力	自ら学び、考え、主体的に行動する力	社会生活に必要な常識やマナー	教科の基礎的な学力	物事をやり遂げる粘り強さ	生き方や進路について考える力	健康や安全を自己管理する力	表現力やコミュニケーション力
4年以下	152	57.9	44.7	50.7	16.4	20.4	22.4	10.5	3.9	28.3
5～9年	146	50.7	47.3	54.1	21.9	23.3	20.5	7.5	2.1	27.4
10～19年	140	53.6	45.7	44.3	16.4	27.9	22.9	9.3	3.6	25.7
20～29年	121	52.1	49.6	52.1	12.4	31.4	15.7	9.9	5.8	21.5
30年以上	121	47.9	48.8	46.3	22.3	23.1	15.7	7.4	8.3	21.5

区分	基本的な生活習慣や食習慣	外国語を聞いたり、話したりする力	豊かな心や情操	社会に役立つ心や公共心	コンピュータを活用する力や情報モラル	環境やエネルギーを大切にする意識	安全や防災に関する意識	その他	無回答
4年以下	5.3	3.3	7.9	5.9	6.6	0.0	0.0	0.0	0.0
5～9年	4.8	1.4	6.8	8.9	6.2	0.0	1.4	0.7	0.0
10～19年	7.1	1.4	8.6	10.7	2.1	0.7	4.3	0.0	0.7
20～29年	9.1	1.7	10.7	13.2	1.7	0.8	0.8	0.8	0.0
30年以上	11.6	3.3	17.4	10.7	3.3	0.8	2.5	1.7	0.0

③ 職場環境について

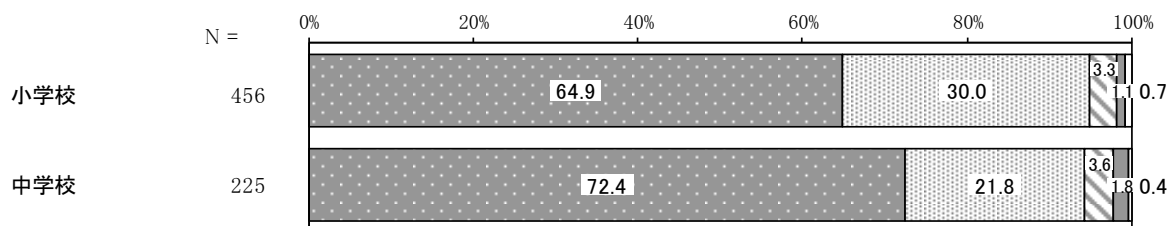
問 10 あなたはご自身の職務について忙しいと感じていますか。(○は1つ)

「感じている」と「どちらかというと感じている」をあわせた“感じている”の割合が94.7%、「どちらかというと感じていない」と「感じていない」をあわせた“感じていない”の割合が4.7%となっています。



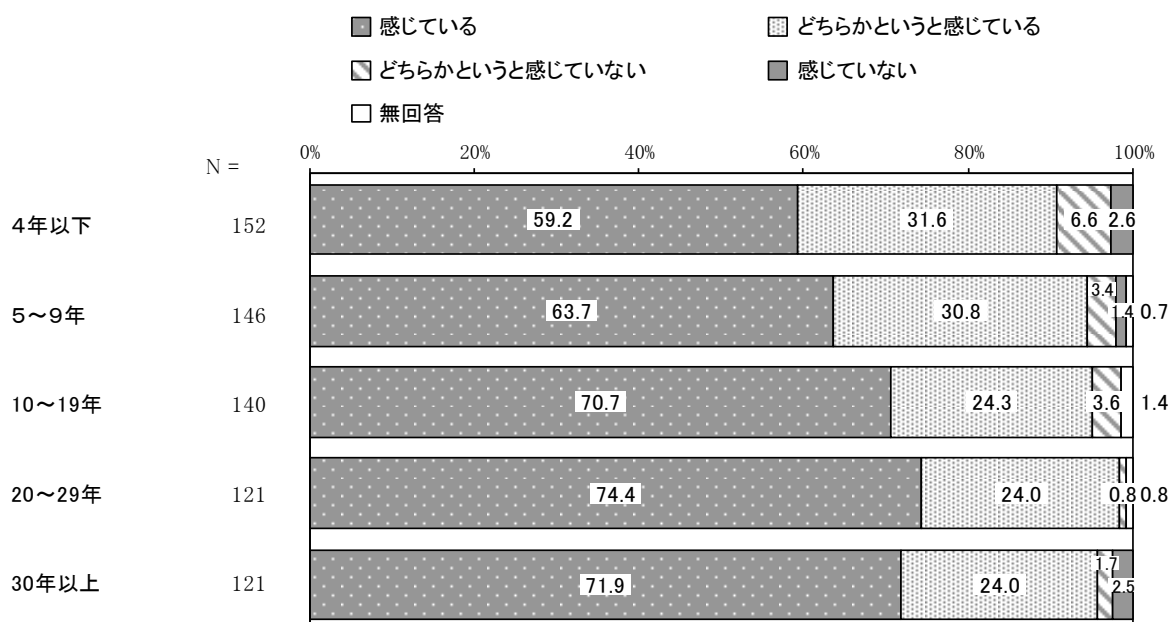
【学校別】

学校別でみると、大きな差異はみられません。



【経験年数別】

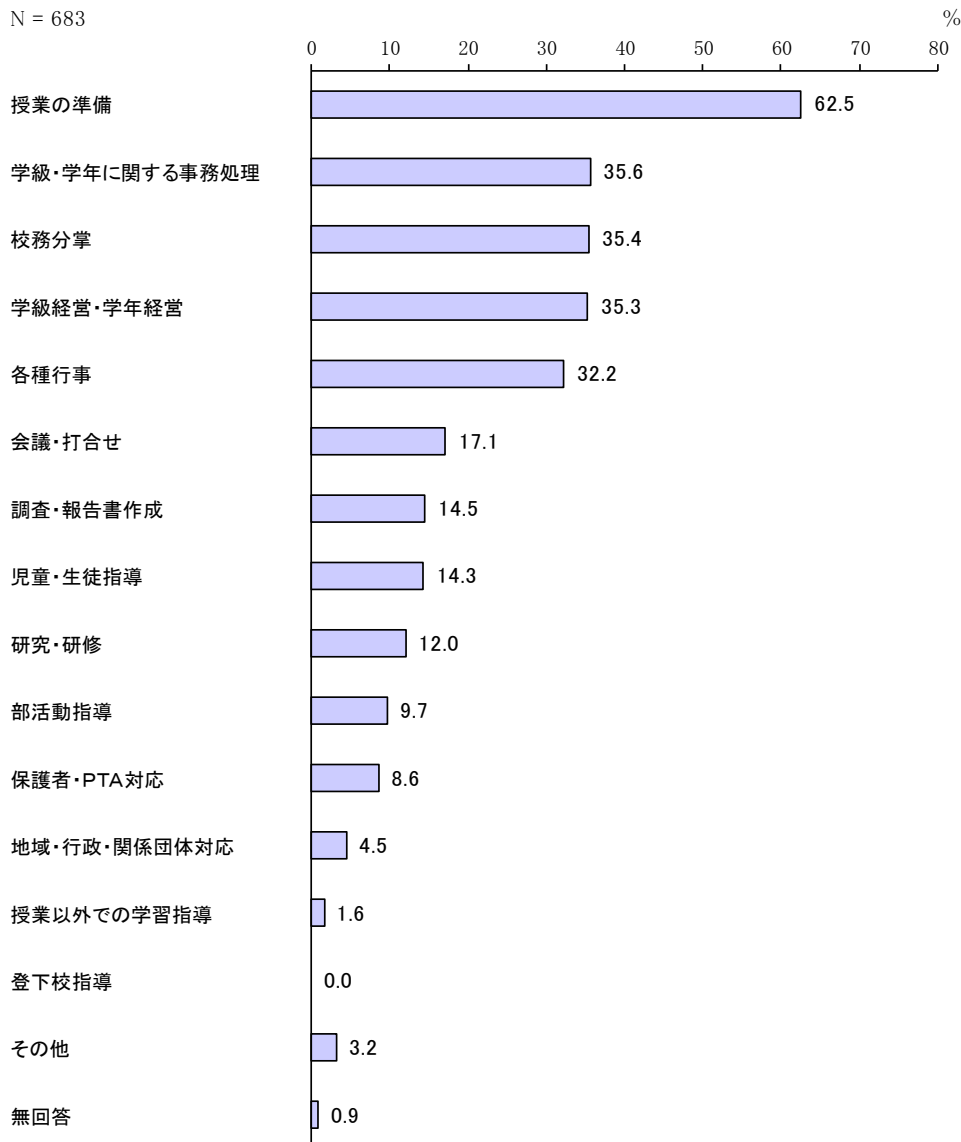
経験年数別でみると、経験年数が長くなるにつれ“感じている”の割合が高くなる傾向がみられます。



問 11 仕事をするうえで、あなたが、①時間をかけている業務、②負担感を感じている業務は、どのような業務ですか。(それぞれ主なもの3つまで番号を記入)

①時間をかけている業務

「授業の準備」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「学級・学年に関する事務処理」の割合が 35.6%、「校務分掌」の割合が 35.4%となっています。



【学校別】

学校別で見ると、中学校に比べ、小学校で「各種行事」「学級経営・学年経営」「校務分掌」の割合が高くなっています。また、小学校に比べ、中学校で「学級・学年に関する事務処理」「部活動指導」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	授業の準備	各種行事	学級経営・学年経営	校務分掌	会議・打合せ	学級・学年に関する事務処理	調査・報告書作成	研究・研修
小学校	456	63.6	34.2	37.7	37.5	18.2	34.0	15.4	13.6
中学校	225	60.4	28.4	30.7	31.6	15.1	39.1	12.4	8.9

区分	保護者・PTA対応	地域・行政・関係団体対応	授業以外での学習指導	児童・生徒指導	部活動指導	登下校指導	その他	無回答
小学校	8.8	5.0	1.3	12.9	0.2	0.0	3.7	1.1
中学校	8.0	3.1	1.8	17.3	28.9	0.0	2.2	0.4

【経験年数別】

経験年数別でみると、経験年数が長くなるにつれ「地域・行政・関係団体対応」の割合が、経験年数が短くなるにつれ「授業の準備」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、10～19年で「校務分掌」の割合が、30年以上で「会議・打合せ」の割合が高くなっています。

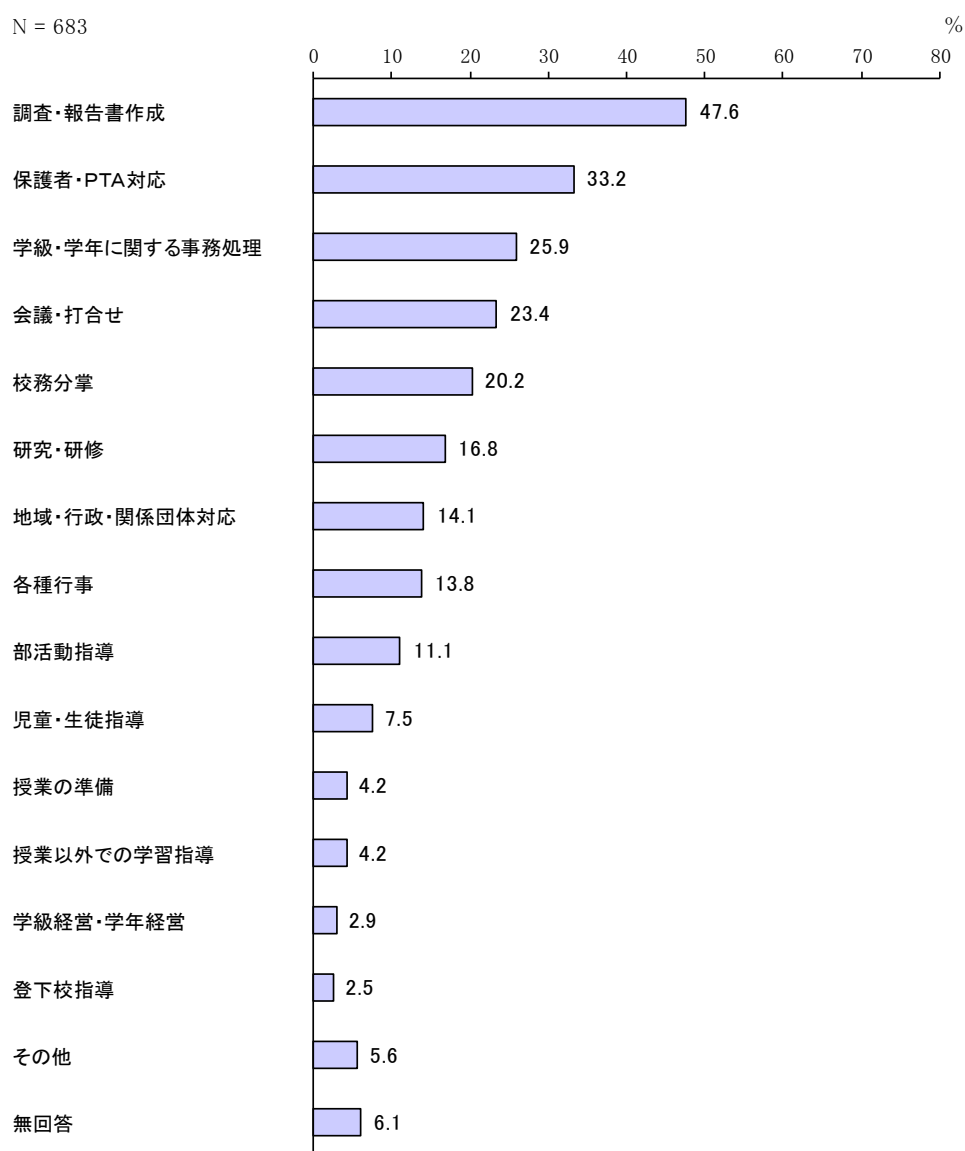
単位：％

区分	有効回答数 (件)	授業の準備	各種行事	学級経営・学年経営	校務分掌	会議・打合せ	学級・学年に関する 事務処理	調査・報告書作成	研究・研修
4年以下	152	69.7	32.9	34.2	33.6	15.8	38.2	11.8	8.6
5～9年	146	65.8	37.0	33.6	32.2	17.8	35.6	8.9	14.4
10～19年	140	61.4	30.7	40.0	47.1	15.0	37.9	14.3	15.7
20～29年	121	62.8	30.6	33.1	40.5	13.2	37.2	19.8	9.1
30年以上	121	50.4	28.9	36.4	24.0	24.0	28.9	19.0	12.4

区分	保護者・PTA対応	地域・行政・関係団体 対応	授業以外での学習指導	児童・生徒指導	部活動指導	登下校指導	その他	無回答
4年以下	5.3	0.0	1.3	13.2	13.8	0.0	0.0	1.3
5～9年	6.2	0.0	1.4	20.5	13.7	0.0	2.1	1.4
10～19年	6.4	1.4	0.7	11.4	5.7	0.0	2.9	0.0
20～29年	13.2	10.7	0.8	9.9	4.1	0.0	5.0	0.0
30年以上	14.0	12.4	3.3	15.7	9.9	0.0	7.4	1.7

②負担感を感じている業務

「調査・報告書作成」の割合が47.6%と最も高く、次いで「保護者・PTA対応」の割合が33.2%、「学級・学年に関する事務処理」の割合が25.9%となっています。



【学校別】

学校別でみると、中学校に比べ、小学校で「各種行事」「校務分掌」「会議・打合せ」「学級・学年に関する事務処理」「調査・報告書作成」の割合が高くなっています。また、小学校に比べ、中学校で「保護者・PTA対応」「部活動指導」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	授業の準備	各種行事	学級経営・学年経営	校務分掌	会議・打合せ	学級・学年に関する事務処理	調査・報告書作成	研究・研修
小学校	456	3.5	16.2	2.4	23.9	28.1	28.3	49.8	16.2
中学校	225	5.8	8.9	4.0	12.9	13.8	21.3	43.1	18.2

区分	保護者・PTA対応	地域・行政・関係団体対応	授業以外での学習指導	児童・生徒指導	部活動指導	登下校指導	その他	無回答
小学校	30.5	13.8	3.9	6.4	0.7	3.5	4.6	6.8
中学校	38.2	14.7	4.4	9.8	32.4	0.4	7.1	4.9

【経験年数別】

経験年数別でみると、経験年数が短くなるにつれ「各種行事」「校務分掌」の割合が高くなっています。また、他に比べ、10～19年、30年以上で「調査・報告書作成」の割合が高くなっています。

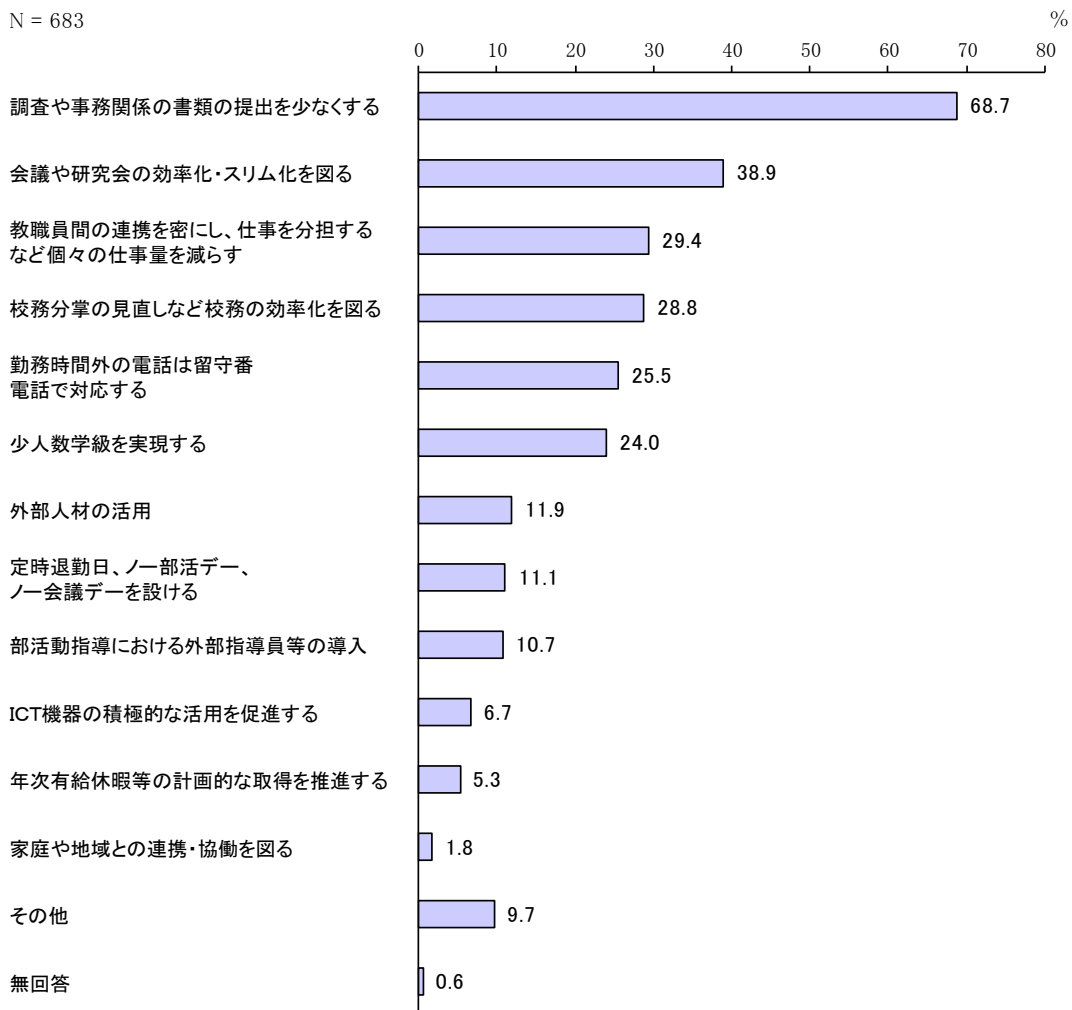
単位：％

区分	有効回答数 (件)	授業の準備	各種行事	学級経営・学年経営	校務分掌	会議・打合せ	学級・学年に関する 事務処理	調査・報告書作成	研究・研修
4年以下	152	7.2	17.8	5.9	29.6	22.4	25.7	31.6	17.1
5～9年	146	4.8	17.1	1.4	21.2	32.9	35.6	45.2	18.5
10～19年	140	2.1	14.3	1.4	20.7	22.1	27.1	57.9	20.0
20～29年	121	5.0	9.9	5.0	18.2	21.5	22.3	46.3	13.2
30年以上	121	1.7	8.3	0.8	9.1	15.7	17.4	59.5	14.9

区分	保護者・PTA対応	地域・行政・関係団体 対応	授業以外での学習指導	児童・生徒指導	部活動指導	登下校指導	その他	無回答
4年以下	26.3	7.9	4.6	5.3	16.4	3.3	2.0	12.5
5～9年	33.6	9.6	2.7	5.5	13.0	1.4	1.4	2.7
10～19年	33.6	15.7	5.7	7.1	5.0	2.9	10.7	2.1
20～29年	34.7	21.5	5.0	10.7	9.1	2.5	6.6	3.3
30年以上	38.8	17.4	2.5	9.9	11.6	2.5	7.4	9.9

問 12 多忙を解消するために必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」の割合が 68.7%と最も高く、次いで「会議や研究会の効率化・スリム化を図る」の割合が 38.9%、「教職員間の連携を密にし、仕事を分担するなど個々の仕事量を減らす」の割合が 29.4%となっています。



【学校別】

学校別でみると、中学校に比べ、小学校で「会議や研究会の効率化・スリム化を図る」「校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る」「少人数学級を実現する」の割合が高くなっています。また、小学校に比べ、中学校で「定時退勤日、ノー部活デー、ノー会議デーを設ける」「部活動指導における外部指導員等の導入」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	教職員間の連携を密にし、仕事を分担するなど個々の仕事量を減らす	調査や事務関係の書類の提出を少なくする	会議や研究会の効率化・スリム化を図る	勤務時間外の電話は留守番電話で対応する	定時退勤日、ノー部活デー、ノー会議デーを設ける	校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る	部活動指導における外部指導員等の導入
小学校	456	28.5	68.9	43.9	25.7	9.0	32.9	1.1
中学校	225	31.6	68.0	29.3	25.3	15.6	20.9	30.2

区分	年次有給休暇等の計画的な取得を推進する	ICT機器の積極的な活用を促進する	家庭や地域との連携・協働を図る	外部人材の活用	少人数学級を実現する	その他	無回答
小学校	3.9	6.8	1.8	12.9	28.7	7.9	0.7
中学校	8.0	6.7	1.8	9.3	14.2	12.4	0.4

【経験年数別】

経験年数別でみると、経験年数が長くなるにつれ「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」の割合が、経験年数が短くなるにつれ「ICT機器の積極的な活用を促進する」の割合が高くなっています。また、他に比べ、5～9年で「会議や研究会の効率化・スリム化を図る」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	教職員間の連携を密にし、仕事を分担するなど個々の仕事量を減らす	調査や事務関係の書類の提出を少なくする	会議や研究会の効率化・スリム化を図る	勤務時間外の電話は留守番電話で対応する	定時退勤日、ノー部活デー、ノー会議デーを設ける	校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る	部活動指導における外部指導員等の導入
4年以下	152	30.3	52.0	39.5	27.0	20.4	27.6	13.8
5～9年	146	34.2	64.4	44.5	27.4	9.6	32.2	9.6
10～19年	140	33.6	75.0	39.3	27.9	7.1	32.1	3.6
20～29年	121	24.8	76.9	36.4	22.3	9.1	32.2	10.7
30年以上	121	23.1	78.5	33.9	21.5	7.4	19.0	16.5

区分	年次有給休暇等の計画的な取得を推進する	ICT機器の積極的な活用を促進する	家庭や地域との連携・協働を図る	外部人材の活用	少人数学級を実現する	その他	無回答
4年以下	7.2	11.8	0.0	12.5	15.8	6.6	0.7
5～9年	5.5	7.5	0.7	7.5	25.3	6.2	0.7
10～19年	3.6	5.7	2.9	12.1	26.4	5.7	0.7
20～29年	5.0	5.0	2.5	12.4	27.3	13.2	0.0
30年以上	5.0	2.5	3.3	14.9	27.3	18.2	0.8

2 アンケート調査票

西東京市教育委員会 教員用アンケート調査

日頃から西東京市の児童・生徒の教育にご尽力いただきありがとうございます。

この度、西東京市教育委員会では、次期「西東京市教育計画（計画期間：平成31年度～平成35年度）」の策定にあたり、教育に関する皆様のご意見等をお聞かせいただきたく、教職員の皆を対象にアンケート調査を実施することといたしました。

アンケートの結果は、今後の教育施策のための基礎資料として活用させていただきますので、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただきました内容はすべて統計学的に処理しますので、個人が特定されることや、アンケート集計の他に使用することは一切ございません。

平成29年12月
西東京市教育委員会

あなた自身のことについておたずねします。

問1 性別はどちらですか。（○は1つ）

男性

女性

問2 勤務先はどちらですか。（○は1つ）

1 小学校

2 中学校

問3 職種を教えてください。（○は1つ）

1 管理職

2 教員（管理職以外）

問4 経験年数を教えてください。（○は1つ）

1 4年以下

2 5～9年

3 10～19年

4 20～29年

5 30年以上

教育や学習に関する取組についておたずねします。

問5 子どもたちが学校や先生に望むことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい
- 2 体験学習などをたくさんできるようにしてほしい
- 3 興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい
- 4 いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい
- 5 悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい
- 6 がんばっていることをもっと認めてほしい(ほめてほしい)
- 7 先生にはみんなに平等に接してほしい
- 8 一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい
- 9 学習がわかるようにしてほしい
- 10 学校の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい
- 11 悩みや意見をじっくり聞いてほしい
- 12 クラブ活動・部活動に力を入れてほしい
- 13 行事が楽しくなるようにしてほしい
- 14 先生以外の人に学校に来てもらって、一緒に学習したり遊んだりしてほしい
- 15 その他()
- 16 特にない

問6 西東京市の子どもたちや学校教育の現場で課題だと感じていることは何ですか。
(〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 子どもたちの学力の低下 | 8 地域の教育力の低下 |
| 2 子どもたちの道徳心や規範意識などの低下 | 9 学校・家庭・地域の連携 |
| 3 子どもたちの健康状態や体力の低下 | 10 保・幼・小・中学校間の連携 |
| 4 子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ | 11 学校の施設や設備 |
| 5 子どもたちの問題行動やいじめ・不登校 | 12 教職員の指導力の低下 |
| 6 家庭環境などによる教育格差 | 13 その他() |
| 7 家庭の教育力の低下 | 14 特にない |

問7 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思いますか。
(〇はいくつでも)

- 1 学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること
- 2 学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと
- 3 学校・家庭・地域が定期的に話し合う場を設けること
- 4 学校が家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと
- 5 学校が保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること
- 6 学校施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニティの拠点として活用すること
- 7 家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけ等、積極的に役割を担っていくこと
- 8 PTA活動を活性化すること
- 9 地域でのイベント等の開催において、学校や教育委員会の協力を求めていくこと
- 10 その他()
- 11 わからない
- 12 特にない

問8 今後、西東京市の公立学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるものは、どれですか。(〇は3つまで)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 少人数学級 | 11 小中一貫教育 |
| 2 民間人の校長登用 | 12 P T A活動の活性化 |
| 3 小学校における教科担任制 | 13 地域に開かれた学校活動(公開授業など) |
| 4 教職員の能力の向上 | 14 学校評議員など開かれた学校運営 |
| 5 外部講師の活用 | 15 外部評価の導入 |
| 6 基礎学力習得のための補習 | 16 老朽校舎の建替えや改修 |
| 7 夜間塾など高度な学力養成 | 17 その他() |
| 8 一人ひとりに応じた特別支援教育の充実 | 18 わからない |
| 9 安全や防災教育の充実 | 19 特にない |
| 10 二学期制 | |

問9 西東京市の学校教育で子どもに教えることとして、重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

- 1 思いやりの心や、善悪の判断など、道徳心
- 2 人間関係を築く力
- 3 自ら学び、考え、主体的に行動する力
- 4 社会生活に必要な常識やマナー
- 5 教科の基礎的な学力
- 6 物事をやり遂げる粘り強さ
- 7 生き方や進路について考える力
- 8 健康や安全を自己管理する力
- 9 表現力やコミュニケーション力
- 10 基本的な生活習慣や食習慣
- 11 外国語を聞いたり、話したりする力
- 12 豊かな心や情操
- 13 社会に役立つ心や公共心
- 14 コンピュータを活用する力や情報モラル
- 15 環境やエネルギーを大切にすること意識
- 16 安全や防災に関する意識
- 17 その他()

職場環境についておたずねします。

問10 あなたはご自身の職務について忙しいと感じていますか。(〇は1つ)

- 1 感じている
- 2 どちらかというと感じている
- 3 どちらかというと感じていない
- 4 感じていない

問 11 仕事をするうえで、あなたが、①時間をかけている業務、②負担感を感じている業務は、どのような業務ですか。(それぞれ主なもの3つまで番号を記入)

①時間をかけている業務				②負担感を感じている業務			
-------------	--	--	--	--------------	--	--	--

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 授業の準備 2 各種行事 3 学級経営・学年経営 4 校務分掌 5 会議・打合せ 6 学級・学年に関する事務処理 7 調査・報告書作成 8 研究・研修 | <ul style="list-style-type: none"> 9 保護者・PTA対応 10 地域・行政・関係団体対応 11 授業以外での学習指導 12 児童・生徒指導 13 部活動指導 14 登下校指導 15 その他 () |
|--|---|

問 12 多忙を解消するために必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

- 1 教職員間の連携を密にし、仕事を分担するなど個々の仕事量を減らす
- 2 調査や事務関係の書類の提出を少なくする
- 3 会議や研究会の効率化・スリム化を図る
- 4 勤務時間外の電話は留守番電話で対応する
- 5 定時退勤日、ノー部活デー、ノー会議デーを設ける
- 6 校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る
- 7 部活動指導における外部指導員等の導入
- 8 年次有給休暇等の計画的な取得を推進する
- 9 ICT機器の積極的な活用を促進する
- 10 家庭や地域との連携・協働を図る
- 11 外部人材の活用
- 12 少人数学級を実現する
- 13 その他 ()

西東京市の教育に関して、望まれることや具体的な提案・感想がございましたら、ご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。